

結核菌ノ増殖度ニ關スル研究

第4報 結核患者全血液中ニ於ケル人型F株

結核菌ノ増殖度ニ關スル研究

金澤醫科大學大里内科教室(大里教授指導)

石川縣立醫王園

竹谷幸太郎

Kôtarô Takeya

(昭和16年5月29日受附 特別掲載)

内 容 抄 錄

石川縣立醫王園ニ入園加療中ノ結核患者220名ノ血液ニ就キ、月1回ノ割ニテ1ヶ月ノ間隔ヲオキ、3ヶ月ニ亘り人型F株結核菌ノS.C.C.ヲ續行シ、別ニ健常成人ノ菌増殖度ヲ検シ、結核患者ニ就キテハ其ノ病型、赤血球沈降速度、體溫、體重、「マントウ氏反応」ト結核菌増殖度トノ關係及ビ病型別並ビニ病狀經過ニ伴フ菌増殖度ノ移動性ヲ研究セリ。

S.C.C.法ニ依リ結核菌ハ結核患者全血液ニ依リテ増殖阻止作用ヲ受クルコト明瞭ナルモ、滲出性肺結核ニ於テ其ノ顯著ナルヲ認メタリ。

赤沈、體溫、體重ノ増悪セザルモノニアリテハ、假令結核患者ナリトモ、菌増殖度健常人ニ劣ラズ可良ナルヲ認メ(増殖度 \pm 以上ノモノ75%内外)、赤沈ハ輕度、中等度促進ノミニテハ増殖度ヲ阻止スルコト少々、強度促進セラル、ニ及ビ増殖阻止作用旺盛トナリ

タリ(増殖度 \pm 以上ノモノ $40.5\pm5.7\%$)。赤沈異常促進ニ有熱ナル1因子ヲ添加スルコトニヨリ増殖度 \pm 以上ノ率ハ $(40.4\pm3.5\%)$ トナリ、更ニ體重減少ナル1因子ヲ追加スルニ及ビ、同ジク $(31.8\pm5.1\%)$ ト次第ニ菌増殖阻止傾向大ナルヲ認メタリ。

「マントウ氏反応」ノ強弱ト菌増殖度トノ間ニハ一定ノ關係ヲ發見シ得ズト雖モ、Negative Anergieナル狀態ニ於テ稍ヤ増殖可良ナルヲ知レリ。

病型別ニ見タル菌増殖度ノ移動性ハ各型共病狀經過ノ如何ニ關セズ不變ナリシモノ半數以上アリタルモ、容疑性肺結核、肺尖結核、無空洞增殖性肺結核ノ如キ病狀ノ比較的安定セルモノニ於テハ、肺門結核、有空洞增殖性肺結核、滲出性肺結核ノ如キ病狀比較的不安定ナルモノニ比シ、菌増殖度ノ動搖性小ナリシヲ認メタリ。

目 次

緒言及ビ文獻概要

第1章 實驗方法及ビ検索事項

第2章 實驗成績

- 1) 健常人ニ就キテ
- 2) 容疑性肺結核患者ニ就キテ
- 3) 肺門腺結核患者ニ就キテ
- 4) 肺尖結核患者ニ就キテ

5) 有空洞增殖性肺結核患者ニ就キテ

6) 無空洞增殖性肺結核患者ニ就キテ

7) 有空洞滲出性肺結核患者ニ就キテ

8) 無空洞滲出性肺結核患者ニ就キテ

9) 肋膜炎患者ニ就キテ

第3章 總括並ニ考按

第1節 健常人及ビ肺結核類別結核菌増殖度

- 第2節 肺結核患者ニシテ赤血球沈降速度
正常圈内ニアリ，體重ノ減少ヲ來サズ
平熱狀態ニ經過セシモノノ結核菌増殖度
- 第3節 肺結核患者ニシテ赤血球沈降速度
異常促進狀態ニ經過セシモノノ結核菌增
殖度
- 第4節 肺結核患者ニシテ，赤血球沈降速度
異状促進シ，且ツ有熱狀態ニ經過セシモ
ノノ結核菌増殖度
- 第5節 肺結核患者ニシテ，赤血球沈降速度異常

- 促進シ，有熱狀態ニシテ，體重減少（1
ヶ月2kg以上）狀態ニ經過セシモノノ結
核菌増殖度
- 第6節 「マントウ氏反應ノ強弱ト結核菌増殖度
トノ關係
- 第7節 病類別並ニ病狀經過別ニ依ル結核菌增殖
度ノ移動性ニ就キテ
- 第4章 結論
引用文獻
第5報ニ一括

緒言及ビ文献概要

1923年 A. E. Wright⁽²⁶⁾ ハ “Capillaryculture-method,” 及ビ Slide cell culture method ヲ考案シ， R. Koch 以來細菌聚落ノ數量的觀察ニハ圓形培養基ノ力ニ俟タズンバ不可能ナリシヲ液體培養基ニ依リテモ可能ナルニ至レリ。

翌1924年 Wright⁽²⁷⁾ ハ Slide cell culture ヲ結核菌ニ應用シ，“New method for the study of the pathology and treatment of tuberculous disease,” ナル論文ヲ發表シ，結核患者血液中ニ於テハ結核菌増殖ガ健康人血液中ニ於ケルヨリモ著シク阻止セラレ，且ツ白血球ガ結核菌ノ周圍ニ集合スル率ガ後者ニ於ケルヨリモ前者ノ血液ニ於テ多キヲ認メ，其ノ結果結核菌ハ強キ破壊作用ヲ受ケ，増殖阻止セラル、モノナリト述べタリ。

其ノ後該法ヲ用ヒテ血液殊ニ全血液ノ殺菌作用或ハ増殖阻止作用ニ就キ研究シタル業績續出スルニ至レリ。結核菌以外ノ細菌ニ就キテノ研究報告ハ既ニ第2報ニ記載セシトコロナリ。

結核菌ニ關スル諸家ノ業績ヲ年次的ニ抜萃セシニ，1926年佐藤氏⁽²⁸⁾ ハ結核免疫ノ成因ニ關スル知見補遺ナル論文ニ於テ健常海猿血液中ニハ人型結核菌ノ發育増殖著明ナルヲ認ムルモ，結核罹患海猿ニ於テハ「ツベルクリン皮内反應ノ陽性轉化ト共ニ，全血液中ニハ著明ナル結核菌増殖阻止作用發現シ，此ノ増殖阻止作用ハ結核罹患ト特殊ノ關係ヲ有シ，他ノ病原體ヲ用ヒ

テ免疫處置ヲ施シタルモノ或ハ結核菌増殖阻止作用ヲ有スル血液ヲ健常動物ニ注射シタルモノニ於テハ發現セザリキト云ヘリ。

1927年 Bannerman⁽¹⁾ ハ人血漿ニ就キテ鳥型結核菌ノ増殖ヲ檢シタルニ，結核患者ノ血漿中ニハ健康人ニ比シ，菌ノ増殖不良ナリシト云フ。

同年 Fry⁽²⁾ ノ Sanocrysin ノ結核菌ニ對スル作用及ビ1928年 Hesse⁽³⁾ u. Meissner⁽¹²⁾ ノ諸種色素ノ結核菌ニ對スル影響ニ就キテハ第2報ニ既述セシトコロナリ。

1928年 Meissner⁽¹³⁾ ハ結核菌ノ血液内増殖ハ實驗ニ供シタル健常海猿及ビ健常家兔ニ於テハ割合ニ個性的差異ヲ示スコト僅少ナリシモ，健康人血液ハ甚ダシキ個人的差異ヲ示セリト，又數種ノ結核菌株ニ就キテノ實驗ハ菌株ニ依リ甚ダシク増殖ニ差異アルコトヲ認メ，同一菌株ニテモ時日ヲ異ニシテ實驗ヲ行フコトニ依リテ全ク異リタル増殖度ヲ呈スルコトアルモ，恐ラク之ハ菌株ノ増殖力並ニ動物身體ノ障礙ニ職由スルモノナラント推定セリ。又氏ハ結核海猿及ビ家兔全血液内ノ結核菌増殖ハ健常海猿及ビ家兔全血液内増殖ヨリ著シク不良ナルヲ實驗セルモ，之ニモ亦増殖度ニ多少ノ動搖ヲ認メタリト云フ。

1930年 Sonak⁽²⁴⁾ ハ數名ノ兒童ニ就キ Tuberkulin-Allergie 下血液内ノ結核菌發育阻止作用

トノ關係ヲ検シ，ピルケー氏反應陽性兒童ノ全血液内ニハ結核菌増殖阻止作用ガ見ラレ，ピルケー氏反應陰性兒童ニ在リテハ菌ノ増殖ヲ認メタリト發表セリ。

1930年伊藤氏⁽⁶⁾ハ結核免疫動物ノ結核菌増殖阻止作用=就キ研究シ，種々ノ異レル方法=依リ免疫セル結核免疫動物ノ全血液内結核菌發育阻止作用ヲ比較検索セル結果，B.C.G. 及ビ生菌ヲ以テ免疫セル場合ニハ，發育阻止作用著シク，死菌免疫ニ依リテハ阻止作用ノ發現セザリシコトヨリ B.C.G. ガ Vaccin トシテ豫防的効果アルヲ知リ得タリ。又結核菌増殖阻止作用ト Tuberkulin-Allergie トノ關係ハ死菌免疫ノ場合ニハ兩者ノ關係並行セザレドモ生菌接種ノ場合ニハ略ボ歩調一致セルヲ認メタリ。尙ホ強毒力菌株ハ弱毒力菌株ヨリ増殖著明ニシテ白血球ニヨリ貪喰サル、ハ B.C.G. 最モ多ク，牛型結核菌ハ最モ少シ。更ニ血漿内培養ニ於テ結核菌發育阻止作用ハ健常海猿ヨリ結核海猿ニ於テ強キヲ認メ，更ニ血漿ニ白血球ヲ混ズルモ，培養成績ニ著變ヲ與ヘザリシコトヨリ結核菌増殖阻止物質ハ血漿内ニ存シ，Wright ノ云ヘルガ如ク白血球ト重大ナル關係ヲ有スペカラザルヲ説ケリ。

1930年伊藤，飯田，野尻，濵川⁽⁶⁾ノ諸氏ハ B.C.G. ヲ接種セル猿ニ就キテ實驗シ，接種後2週間乃至3週間ヲ經過セバ其ノ血液中ニ明カニ結核菌増殖阻止作用ヲ發現スルヲ知レリ。

1930年高橋，芦村兩氏⁽⁵⁾ハ一度喰菌ニ依リテ白血球ノ體内ニ這入レル結核菌ガ喰菌セラレザル結核菌ト全ク同一速度ニテ増殖シ，比較的短時間後ヨリ分裂増殖(死滅スルモノニ非ズ)ヲナスガ故ニ喰菌作用ヲ以テ免疫作用ヲ説明シ能ハズト述ベタリ。

1930年濵川氏⁽²³⁾ハピルケー氏反應及ビマントウ氏反應共ニ陰性ニシテ，シカモ「レントゲン線所見及ビ臨床上所見ニ於テハ高度ノ肺浸潤ヲ認メ病勢惡化ノ狀態即チ Negative-Anergie の狀態ニアル末期結核患者14名ニ就キ實驗シタルニ，一般結核患者血液ノ菌増殖阻止作用アルニ

反シ，却テ菌増殖良好ナリト云フ一新知見ヲ獲得シ，患者ノ豫後判定ノ一助トナシ得ベシト發表セリ。

1930年貴島，濵川兩氏⁽⁸⁾ハ陽性ツベルクリン無反應海猿ノ全血液中ニ於ケル結核菌増殖阻止作用=就キテ研究發表セリ。即チ實驗的ニ陽性ツベルクリン無反應狀態ヲ作り，其ノ動物ノ全血液内ニ結核菌ヲ培養セバ，増殖阻止作用ヲ示スコトヨリ「ツベルクリン皮内反應ト増殖阻止作用トハ必ズシモ並行スルモノニ非ズシテ，陽性無反應ノ場合ニハ縱令「ツベルクリン皮内反應陰性ナリト雖モ増殖阻止作用ハ保持セラル、ガ故ニ此ノ點ヨリ考フルニ陽性ツベルクリン無反應動物ガ結核菌ニ對スル免疫力ヲ保チ得ルモノト云フヲ得可シト述ベタリ。

1932年緒方氏⁽¹⁸⁾ハ健常海猿ノ全血液中ニ於テ人型結核菌ハ發育増殖スルコトヲ得ルモ，健常人體ノ全血液中ノ増殖ニ比較スレバ或ル程度ノ増殖阻止作用アルヲ認メ，且ツ健常海猿ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ増殖ハ個體ニ依リテ著シク相異アルヲ知リタリ。又全血液中ノ結核菌増殖ハ種々血液性状ヲ變化セシムガ如キ因子ニ左右セラル、コトヲ研究セリ。即チ海猿ヲ饑餓或ハ過血糖狀態トナス時ハ血液内結核菌増殖ハ著シク促進セラレ，妊娠，瀉血ハ菌増殖ニ影響ヲ與ヘズ，血液毒ニ依ル貧血ニテハ，其ノ種類ニ依リ影響ヲ異ニシ，「グリセリン」注射ニ依ル貧血ハ菌増殖ヲ促進シ，「ピロデン」注射ニ依ル貧血ハ之ヲ阻止シ，其ノ他「レントゲン線照射ハ初メ増殖ヲ阻止シ，後之ヲ促進スト稱セリ。

1932年緒方，濵川兩氏⁽¹⁹⁾ハ健康成人血液ノ人型結核菌増殖阻止作用ニ就テ研究シ，健康成人血液中ニハ人型結核菌ハ發育増殖スルモ，幾分抑制乃至阻止的作用ノアルコト，「ツベルクリン反應陽性度ニ強キモノニハ菌増殖ノ阻止セラル、コトノ多キコト，「ツベルクリン反應陽性ニシテ菌増殖ノ阻止多キモノハ結核發病ノ傾向多キコト，健康人ニ於テハ「ツベルクリン反應陰性即チ菌増殖陽性，「ツベルクリン反應

陽性即チ菌増殖陰性ノ法則ハ成立シ得ザルコトヲ述ベタリ。

1933年今村、瀧川兩氏⁽⁵⁾ハ健康人竝=結核患者ノ症狀程度=從ヒテ、結核菌ノ増殖阻止作用ヲ觀察シタルニ健康人、疑似肺結核患者、早期浸潤患者、輕症患者、中等症患者=至ル=從ヒ、漸次阻止作用ノ增强セラルヽヲ知リ、殊ニ中等症患者=アリテハ1例モ全血液内ニ於テ、菌ノ増殖セルヲ見ズ、而シテ Tuberkulin-Allergie ト全血液内結核菌増殖トハ逆行ストナシ、更ニ全血液内結核菌増殖ノ研究ハ肺結核活動性ノ診斷ヲ將來=約束スルモノニシテ、又豫後判定等ニ對シテモ大イニ参考スペキモノナリト説明セリ。

同年山室、瀧川兩氏⁽²⁸⁾ハ妊娠ノ全血液中ニ於ケル結核菌ノ發育ヲ研究セリ。

1935年西村氏⁽¹⁷⁾ハ健常海猿及ビ健常家兎ヲ用ヒ、實驗的ニ鹽酸注射、蔗糖過剰投與、鹽化安門、乳酸ノ靜脈内注射、饑餓、寒冷、鬱熱、「ビタミンB缺乏ニヨリテ Acidose ヲ起サシメ、結核菌増殖ニ及ボス影響ヲ研究セシニ、孰レニ於テモ菌増殖ノ促進セラルヽヲ經驗セリ。Acidose ハ全血液内結核菌増殖ニ對スル血液側ノ一要約トシテ注目スペキコトヲ述ベタリ。

尙ホ同氏ハ「血液ノ水素イオン」濃度ノ變化ヲ顧慮シ、流動パラフィン」中ニ於テ健康人43名、疑似肺結核患者14名、停止性肺結核患者12名、進行性肺結核患者33名、重症患者9名ノS.C.C.ヲ行ヒタルニ培養日數ハ5日目ヲ以テ最適トナスペク、増殖程度ハ健康人ニ於テ最可良、疑似性、停止性、進行性ノ順ニ漸次増殖阻止セラレタルモ重症患者ニ於テハ再び増殖可良トナリタルヲ發表スルトコロアリ。

1936年西川氏⁽¹⁶⁾ハ「乳兒全血液内ニ於ケル人型結核菌ノ増殖」ナル論文ヲ發表シ、健康乳兒全血液内培養ニ於テ人型結核菌ハヨク増殖シ、其ノ程度ハ健康成人全血液内培養ニ比シ、發育旺盛且ツ個人の差異ヲ認メシ事、乳兒全血液内培養人型結核菌増殖ハ該乳兒「マントウ氏皮内反應陽性度ノ增强スルニ從ヒ、一定ノ阻止的作

用ヲ蒙ムルモ、成人ニ於ケルト等シク「ツベルクリン反應陽性即チ菌増殖陰性ナル法則ヲ認メ得ザリシコト、健常乳兒全血液内培養人型結核菌増殖ハ B. C. G. 「ワクチン」接種ニヨリ阻止的影響ヲ蒙ムルコトヲ認メ、其ノ他諸種疾病罹患乳兒ノ全血液ニ就キ菌増殖ノ如何ヲ檢シタリ。

同年寶來氏⁽⁴⁾ハ S. C. C. 法ニ依リ血漿中ノ結核菌増殖及ビ増殖阻止作用ヲ検査シタルニ、健康家兎及ビ「ツベルクリン反應陰性ノ健康者ニ於テハ菌増殖阻止作用ヲ認メ得ズ、結核動物及ビ結核罹患者ニ於テハ増殖阻止作用認メラレタルコトヨリ血漿内ニ菌増殖阻止物質ノ存在スペキコトヲ知リタリ。

1938年工藤氏⁽¹⁰⁾ハ人型F株加熱乾燥死菌及ビB. C. G. ヲ海猿ニ注射シ、Tuberkulin Allergie ト免疫トノ關係ニ就キ、S. C. C. 法ニヨリ研究シタルニ、加熱死菌トB. C. G. 接種ニ於ケル免疫効果ハ B. C. G. = 依ル方ガ勝リ、且ツ加熱死菌ト雖モ、大量使用セシ場合ハ相當免疫効果ノアル事ヲ述べ、伊藤氏ノ死菌免疫ノ場合「アレルギー」ハ弱陽性ニ發現スルモ、S. C. C. 法ニ依ル結核菌發育阻止作用ノ認メラレザリシ事ニ對シ、恐ラク菌量ノ關係ニ依リシモノナラントノ説明ヲ與ヘタリ。又今村、瀧川兩氏ガ「アレルギー」ト S. C. C. トノ成績ハ逆行スルト云ヒ、即チ「アレルギー」陰性ナルトキハ菌増殖陽性ニシテ、菌増殖陰性ナルバ「アレルギー」陽性ナリト述ベタルニ對シ、工藤氏ハ氏ノ實驗成績ニ依レバ斯ル說ノ成立セザリシコトヲ證明セリ。

1939年宮坂氏⁽¹⁴⁾ハ菌増殖ノ時間的追求ヲ血行性及ビ浸潤性肺結核ニ就キテ生物學的反應殊ニ補體結合反應ト比較シテ見ルニ、菌増殖陰性ハ補體結合反應陽性者ニ多ク、殊ニ浸潤性肺結核ノ場合ニハ、此ノ率ハ更ニ高クナリシコトヲ述べ、又同一人ニ就キテ菌増殖ヲ長期ニ亘リ追求スルニ初感染症ニ於テハ、「マントウ氏反應及ビ補體結合反應共ニ陰性ナル時ハ旺盛ナル増殖ヲ呈スルモ、「マントウ氏反應又ハ補體結合反應ガ陽性ニ轉化シタル場合ハ増殖阻止セラレ

又赤血球沈降速度ガ促進セル時ハ尙ホ菌増殖ノ阻止セラル、ヲ見ルト云フ。

血行性撒布型ニアリテハ初メ菌増殖状態ニアリ、漸次阻止状態ニ進ムモ、浸潤性早期型ニ於テハ既ニ阻止状態ニアルモ肺結核ノ進行スル場合ハ菌増殖促進セラレ、良好ノ経過ヲトル時ハ菌増殖阻止強度トナリ治癒ニ赴ク時ハ旺盛トナリシヲ認メ、晚期型肺結核患者30名ノ内阻止状態ヨリ増殖状態ニ向ヒシモノ8名ノ内5名ハ死亡シタルヲ發表スルトコロアリ。

1940年熊本氏⁽¹¹⁾ハ健常家兎動靜脈血ニ就キ、全血液内結核菌増殖ハ兩者ニ於テ其ノ差異ヲ認

メ得ザリシ事ヲ説キ、又海猿全血液内菌増殖ハ個體的ニ相違アルヲ認メタリ。

余ハ大里教授御指導、醫王園長大澤天臣博士ノ御厚意ノ下ニ、石川縣立醫王園入園加療中ノ結核患者220名ニ就キ、S. C. C. 法ニ依ル結核菌ノ増殖度ガ結核病型、赤血球沈降速度、體溫、體重及ビ「マントウ氏反応ト如何ナル關係ヲ有セシヤ、將タ又病狀ノ推移ガ結核菌ノ増殖度ニ如何ニ影響セシヤヲ研究シ、併セテ健康人44名ノ菌増殖度如何ヲ觀察シタルヲ以テ此處ニ發表シ、諸賢ノ御批判ヲ乞ハントス。

第1章 實驗方法及ビ檢索事項

1. S. C. C. 法ニ就キテハ既ニ第2報ニ於テ詳述セリ。培養日數ハ7日間トシ1人ニ就キ、2枚ノ標本ヲ製シ、増殖度ハ綜合判定ヲ以テ決セリ。約1ヶ月ノ間隔ヲオキ、毎月1回之ヲ施行シ、3ヶ月間繼續セリ。但シ療養中途ニ死亡セルモノ及ビ退園ノ已ムナキニ至リタルモノ或ハ患者ノ事故ノ爲メ2回ノ實驗ニ止メタルモノアリ。余ノ方法ニ依ル培養ニ於テハ從來發表セラレ居ル増殖度ヨリ頗ル可良ナリ。増殖度卅以上ヲ以テ増殖度可良ト見做セリ。

2. 被檢者、石川縣立醫王園ニ入園加療中ノ男子患者146名、女子患者74名及ビ對照トシテ健康男子3名、女子41名ヲ選ビ、耳朶ニ刀ヲ加ヘテ流出スル全血液ヲ使用セリ。血液ト菌浮游液トノ比ハ略ボ9:1ナリトス。

3. 赤血球沈降速度

Westergrenノ裝置ニ依リ室温ニ放置シ、1時間後ノ値ヲ測定記載セリ。毎月1回S. C. C. ノ前或ハ後ニ施行セル値ヲ記入シタリ。判定ハ小川、岡部兩氏⁽²⁰⁾ノ實驗基準ニ從ヒ、1時間正常、男子1-6mm、女子1-8mmトシ、輕度促進ヲ9-23mm、中等度促進ヲ24-55mm、強度促進ヲ56mm以上トセリ。

4. 「マントウ氏反応

東京傳染病研究所製造ノ舊ツベルクリン」2000倍稀釋溶液ヲ前脛内側皮内ニ注射シ、48時間後ニ發赤並ニ浸潤ヲ檢シ、其ノ大ナルモノヲトリ、判定ハ直徑5-10mmヲ(+)、11-20mmヲ(++)、21-30mmヲ(++)、30mm以上ヲ(+)トシ、4mm以下ハ無反應ノ内ヘ、又

水泡形成ハ其ノ大小ナルニ拘ラズ(+)ヘ算入セリ。「マ氏反応ハ實驗毎ニ施行セズ入園後ニ施行セルモノヲ以テ該當セシメタリ。

5. 體重

毎週月曜日ニ測量シ居ルヲ以テ、S. C. C. 實驗ニ接近シタル日ニ測量シタル體重ヲ記入シ、1ヶ月ノ體重ノ増減ハ2kg以上ノ變動アリタルモノト定メタリ。

6. 檢痰

毎月1回喀痰検査時ノ檢痰成績ヲ記入セリ。

7. 肺結核分類

- a. 容疑性肺結核
- b. 肺門結核(腫瘍型、炎衝型)
- c. 肺尖結核
- d. 通常慢性肺結核

附肋膜炎

通常慢性肺結核ハ「レントゲン線所見ヨリ増殖性肺結核(理學的所見及ビ生物學的諸反應ヨリ觀察シタル停止性ニ一致ス)及ビ滲出性肺結核(同ジク進行性ニ一致ス)ニ二大別シ、更ニ空洞ノ有無ニヨリテ分別セリ。病竈ニ關スルX線所見ヲ簡單ニ記載シ内藤益一氏⁽¹⁵⁾病竈ノ大小ニ關スル分類方法即チ限局性、片側性、兩側性、全肺野性ノ孰レニ相當シ居ルヤヲ附記スルトコロアリ。

8. 病狀經過

良好、不變、增悪ト大別シ、主トシテ臨床上ノ所見ニ基キタルモノナリ。

9. 作業階級

患者ノ症狀ヲ最モ簡單ニ知リ得ル便宜上ノ差別トナリ得ルモノニシテ，A. B. C. D. ノ四階級ニ分チ，A. B. 階級ニ屬スルモノハ病狀僅微ナルカ，或ハ頗ル良好経過ノ一途ヲ辿リツツアリ，屋外静臥及ビ散歩（共ニ日光ノ直射ヲ避ク），娛樂或ハ花壇，菜園ノ除草，掃除，撒水等多少ノ筋肉勞働ヲ許容シ居ルモノナリ。

C. D. 階級ニ屬スルモノハ一般狀態可良ナリト認ムル能ハズ又ハ全ク回復ノ見込ミナキモノニシテ常ニ室内ニ於テ靜臥シ，或ハ絕對安靜ヲ必要トスルモノヲ含ムモノナリ。但シ，一般症狀ヨリ推察シ，A. ハ B. ニ優ルモノデアリ，D. ハ C. ニ劣ルモノナリ。

第2章 實驗成績

1) 健常人=就キテ（第1表 Nr.1—44参照）

健常人トハ X 線上肺内 = 結核性病竈ヲ認ムルヲ得ズ，體溫ハ平熱 = 経過シ，赤血球沈降速度正常範囲内ニアリタルモノトス。

標本ハ同時ニ 2 枚製作シ増殖度ハ綜合判定ヲ以テ決セリ。男子 3 名，女子 41 名ヲ含ム。

2) 容疑性肺結核患者=就キテ（第2表 Nr.1—14 参照）

容疑性肺結核患者（男子 10 名，女子 4 名）トハ結核性疾患罹病者タルノ何等カノ根據ヲ有シ，入園セルモ，X 線上，肺内或ハ肋膜ニ全ク結核性變化ヲ認メ得ザルモノニシテ入園時ノ患者陳述ヲ記スルニ下ノ如シ。

Nr. 1. 作業中血痰ヲ喀出シ，肋膜炎ト診斷セラル。

Nr. 2. 肋膜炎ノ診斷ノ下ニ某病院ニ入院中，肺浸潤ト診斷セラル。

Nr. 3. 咳嗽，喀痰アリテ，肺尖カタール」ト診斷セラル。

Nr. 4. 咳嗽，喀痰アリ，肺疾患ト診斷セラル。

Nr. 5. 右肋膜炎ト診斷セラル。

Nr. 6. 右側肺浸潤ト診斷セラル。

Nr. 7. 某病院ニテ肺尖カタール」ノ診斷ニテ治療ヲ受ケタリト。

Nr. 8. 咳嗽，左胸痛アリ，左肺尖浸潤ト診斷セラル。

Nr. 9. 3, 4 年前喀血 3—4 回見タリト云フ。

Nr. 10. 肩凝アリ，肺尖カタール」ト診斷セラル。

Nr. 11. 輕熱，咳嗽，喀痰アリ，肺疾患ト診斷セラル。

Nr. 12. 咳嗽，喀痰，全身倦怠感アリ，肺浸潤ト診斷セラル。

Nr. 13. 喀血，胸痛，全身倦怠感アリタリト云フ。

Nr. 14. 扁瘦シ，肺門淋巴腺腫脹症ト診斷セラレ，其ノ後ニ至リ，肺尖カタール」ノ診斷ヲ受ク。

3) 肺門腺結核患者=就キテ（第3表 Nr. 15—23 参照）

男子 4 名，女子 5 名ヲ含ム。

4) 肺尖結核患者=就キテ（第4表 Nr. 24—34 参照）

男子 7 名，女子 4 名ヲ含ム。

5) 有空洞增殖性（停止性）肺結核患者=就キテ（第5表 Nr. 35—47 参照）

男子 12 名，女子 1 名ヲ含ム。

6) 無空洞增殖性（停止性）肺結核患者=就キテ（第6表 Nr. 48—96 参照）

男子 45 名，女子 4 名ヲ含ム。

7) 有空洞滲出性（進行性）肺結核患者=就キテ（第7表 Nr. 97—140 参照）

男子 32 名，女子 12 名ヲ含ム。

8) 無空洞滲出性（進行性）肺結核患者=就キテ（第8表 Nr. 141—216 参照）

男子 34 名，女子 42 名ヲ含ム。

9) 肋膜炎患者=就キテ（第9表 Nr. 217—220 参照）

男子 2 名，女子 2 名ヲ含ムモ，孰レモ比較的時日ノ經過セルモノニシテ肋膜ノ肥厚セルヲ認メ得ルモノナリ。

第1表 健常人 S.C.C. 成績 (Nr. 1-44)

番 號	氏 名	年 齢	性	實驗		判 定	番 號	氏 名	年 齢	性	實數		判 定
				1	2						1	2	
1	松 ○ 勇	28	♂	卅	θ	θ	23	和 ○ 幸	17	♀	卅	θ	卅
2	桐 ○ 武 ○	28	♂	卅	θ	θ	24	上 ○ 力	16	♀	卅	θ	廿
3	竹 ○ ○ 太 ○	31	♂	卅	θ	θ	25	江 ○ 圓	17	♀	士	卅	廿
4	荒 ○ ト ○	18	♀	士	士	士	26	大 ○ 晃	18	♀	士	θ	廿
5	畠 久 ○	15	♀	卅	θ	θ	27	貝 ○ 久	17	♀	士	θ	廿
6	小○田 千○子	16	♀	θ	θ	θ	28	古 ○ 靜	17	♀	士	卅	廿
7	北 タ ○	15	♀	θ	θ	θ	29	長 ○ 郁	18	♀	士	士	廿
8	木 ○ 一 ○	16	♀	θ	θ	θ	30	中 ○ カ	17	♀	士	卅	廿
9	北 ○ ト ○	16	♀	卅	θ	卅	31	中 ○ 節	17	♀	士	士	廿
10	佐 ○ 埼 ○	16	♀	卅	卅	卅	32	濱 ○ キ	17	♀	士	士	廿
11	扇 ○ 靜 ○	16	♀	卅	θ	卅	33	林 ○ 俱	16	♀	士	θ	廿
12	苗 ○ ト ○	16	♀	卅	卅	卅	34	藤 ○ 春	19	♀	士	θ	廿
13	仁 ○ 文 ○	16	♀	θ	θ	θ	35	藤 ○ ユ	17	♀	士	θ	廿
14	原 ○ 榮 ○	16	♀	卅	θ	卅	36	堀 ○ ス	18	♀	士	θ	廿
15	平 ○ ○ 鶴 ○	15	♀	十	十	十	37	宮 ○ ト	16	♀	士	士	廿
16	福 ○ ミ ○	16	♀	θ	卅	卅	38	村 ○ 清	17	♀	士	士	廿
17	前 ○ 春 ○	15	♀	卅	卅	卅	39	吉 ○ 高	16	♀	士	士	廿
18	森 ○ ○ 代 ○	16	♀	卅	十	十	40	吉 ○ 秀	17	♀	士	士	廿
19	森 ○ 花 ○	16	♀	十	十	十	41	村 ○ 代	17	♀	士	士	廿
20	役 ○ ト ○	16	♀	十	十	十	42	佐 ○ イ	23	♀	士	θ	廿
21	山 ○ 郁 ○	16	♀	θ	θ	θ	43	吉 ○ 美	19	♀	士	卅	廿
22	米 ○ 覚 ○	15	♀	卅	十	卅	44	向 ○ ユ	18	♀	士	卅	廿

第2表 容疑性肺結核患者 S.C.C. 成績 (Nr. 1-14)

番 號	氏 名	年 回	S.C.C. 成績	赤沈 速度 (mm)	「ガフ キー氏 表(號)	體重 (kg)	主タル臨床所見	X線透視像	經過	作業 階級	「マ 氏反 應
1	谷 ○ 初 ○	21 1 2 3	卅 十 十	32 30 27	0 0 0	54 53 56	ナシ	著變ナシ	不變	A A A	+
2	山 ○ 三 ○	23 1 2 3	+	19 39 37	0 0 0	51 51 51	同上	同上	同上	A A A	+
3	宮 ○ シ ○	27 1 2	卅	11 5	0 0	43 44	同上	同上	同上	A A	+
4	北 ○ ス ○	22 1 2	θ	4 1	0 0	38 41	同上	同上	同上	A A	+
5	今 ○ 藤 ○	23 1 2 3	+	27 6 4	0 0 0	47 48 49	同上	同上	同上	B B B	+

6	中○勝○	22	1	#	33	0	47	同上	同上	同上	B B B	+
7	高○又○	21	1	θ	6	0	46	同上	同上	同上	A A A	+
8	瀬○松○	23	1	θ	11	0	59	同上	同上	同上	A A A	#
9	角○平○	29	1	θ	2	0	56	同上	同上	同上	A A A	+
10	東○利○	24	1	+	3	0	50	同上	同上	同上	A A A	+
11	渡○傳○	26	1	θ	11	0	50	同上	同上	同上	A A A	+
12	井○次○	21	1	#	4	0	55	同上	同上	同上	A A	+
13	西○彥○	22	1	θ	3	0	51	同上	同上	同上	A A	+
14	酒○義○	33	1	θ	6	0	55	同上	同上	同上	A A A	+
		2	#	#	3	0	55					
		3	#	#	4	0	55					

第3表 肺門腺結核患者 S.C.C. 成績 (Nr. 15-23)

番號	氏名	年回	S.C.C. 成績	赤沈 速度 (mm)	「ガフ キ」 氏 表(號)	體重 (kg)	主タル臨床所見	X線透視像	經過	作業 階級	「マ 氏反 應
15	松○哲○	20	〃	#	3	0	56	左胸下部輕濁音ヲ呈シ呼 吸音微弱ナリ	左肋膜肥厚ヲ認ム。 且ツ左肺門部陰翳 炎衝性ニ腫大ス。	A A A	+
16	山○美○	24	〃	+	4	0	56	打診、聽診上著變ナシ。 輕熱持続。腹部壓痛ヲ時 々訴フ。	右肺門腺クルミ大 ニ腫脹ス。	C C D	+
17	村○三○	21	〃	θ	2	0	45	右胸中部呼吸音微弱輕熱 時々。	右肺門腺炎衝性ニ 腫大ス。	C C C	+

18	山○ 清○ ○	17 2	1 2	母 母	28 18	0 0	55 58	ナシ	右肺門腺腫大シ肺内ニ索状陰翳増強ス	良好	B B	+
19	岡○ 芳○ ○	21 2 3	1 2 3	母 母 母	50 40 54	0 0 0	35 36 37	軽熱持続。咳嗽、喀痰少々。	右肺門腺炎衝性ニ腫大ス。	稍々良好	B B B	+
20	中○ 實○ ○	28 2 3	1 2 3	母 母 母	76 35 40	0 0 0	40 40 40	實驗前ヨリ右肺ハ人工氣胸ニ依リ萎縮シ居ルガ故ニ呼吸音弱、微熱ハ入闇來持續ス。第3回實驗1週間前ヨリ下痢便1日1-2回排泄ス。	右肺門腺ハ腫大シ肺内ニ向ツテ陰翳増強ス。	氣胸開始後數回胸水ヲ穿刺シ排除ス、ヤ惡化	C C D	+
21	高○ 三○ ○	18 2 3	1 2 3	母 母 母	28 20 26	0 0 0	48 49 51	ナシ	左側氣管淋巴腺炎衝性ニ腫大ス。	略治	C B B	冊
22	岩○ 由○ ○	18 2	1 2	母 母	5 2	0 0	55 54	ナシ	右肺門淋巴腺腫瘍型ニ腫大ス。	略治	B A	-
23	北○ リ○ ○	22 2 3	1 2 3	母 母 母	92 84 17	0 0 0	40 41 40	初メ平熱ニ經過セシモ、第2回實驗前20日程ヨリ腸結核ヲ併發シ發熱持續セリ。	左肺門淋巴腺炎衝性ニ腫脹ス。	第3回實驗後10日死亡	B C D	+

第4表 肺尖結核患者 S.C.C. 成績 (Nr. 24-34)

番號	氏名	年性	回	S.C.C. 成績	赤沈 速度 (mm)	「ガフ キ一氏 表(號)	體重 (kg)	主タル臨床所見	X線透視像	經過	作業 階級	「マ 氏反 應
24	森○ 恩○ ○	21 2 3	1 2 3	土 十 +	27 18 缺	2 0 0	51 53 53	ナシ	右肺尖野ニ雀卵大ノ空洞ヲ見ル。	不變	B B B	+
25	高○ 忠○ ○	31 " " " "	1 2 3	冊 冊 冊	6 2 4	2 10 4	61 61 60	右胸上部呼吸音尖銳、稍ヤ嗄聲(但シ疼痛ナシ)。	右肺尖部ヨリ鎖骨ニ一致シ陰翳アリ鎖骨ノ上方部ニ小空洞アリ。	音聲ハ漸次正常ニ復シツツアリ	B B B	+
26	大○ フ○ ○	32 " " " "	1 2 3	母 母 母	30 40 28	0 0 0	37 41 43	ナシ	兩側肺尖野ニ細葉性ノ陰翳ヲ見ル。	良好	B B B	+
27	石○ 芳○ ○	23 2	1 2	土 +	9 18	0 0	46 49	ナシ	左鎖骨ニ接シ同側肺尖野ニ陰翳アリ	略治	B A	+
28	平○ 久○ ○	20 2 3	1 2 3	母 母 母	77 60 62	0 0 0	44 46 47	ナシ	右側肺尖浸潤	第3回實驗後3ヶ月ノX所見ハ右中野ニ新ナル小浸潤ヲ見ル	B B B	+
29	北○ 吉○ ○	17 " " " "	1 2 3	母 母 母	13 20 5	0 0 0	47 48 49	軽熱持續	左肺尖浸潤	不變	C C C	冊

30	西○	19	1	+	17	0	47	ナシ	左肺尖浸潤	不變	B B	++
31	山○	20	1	+	27	0	48	ナシ	左肺尖浸潤	稍々良好	B B B	+
32	好○	2	2	++	35	0	49	ナシ	右肺尖浸潤	稍ヤ惡化	B C C	+
33	竹○	22	1	+	5	1	51	微熱狀態持續，第2回實驗後20日頃ヨリ1日1回下痢便ヲ訴フ。	右肺尖浸潤	良好	B A	+
33	幸○	30	2	++	12	0	50	ナシ	左肺尖浸潤	不變	C C C	++
34	德○	28	1	+	13	0	53	輕熱狀態持續，血痰時々，胸椎，腰椎ニ疼痛アリ。	右肺尖浸潤	不變	C C C	++
	登○	2	2	+	40	0	52					
	○	3	3	+	13	0	52					

第5表 有空洞增殖性肺結核患者 S.C.C. 成績 (Nr. 35-47)

番號	氏名	年齢	回	S.C.C. 成績	赤沈 速度 (mm)	「ガフ キ一氏 表(號)	體重 (kg)	主タル臨床所見	X線透視像	經過	作業 階級	「マ 氏反 應
35	飛弘○	24	1	++	5	0	49	右胸上部濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキク。	右肺尖部ヨリ第2肋間マデ浸潤アリ殊ニ肺尖部ニハ雀卵大空洞ヲ見ル。左肺上葉ニ小浸潤ヲ見ル。(片側性)	良好	C B B	++
36	吉豊○	32	2	+	3	0	50					
	○	"	3	++	2	0	51					
37	川英○	40	1	+	85	2	55	左胸全體濁音ヲ呈シ、「ラ音アリ。	左肺全葉ニ亘り陰翳ヲ見、中野ニ雀卵大空洞アリ。右鎖骨下ニ軟陰翳小範圍ニ見ラル。(片側性)	不變	C C C	+
	○	"	2	+	72	0	55					
	○	"	3	+	79	0	55					
38	谷三○	18	2	++	62	0	51	左胸上部濁音ヲ呈シ、「ラ音アリ。左胸下部濁音、呼吸音微弱ナリ。	左肺尖部ヨリ第3肋間マデ陰翳ヲ見、鎖骨下ニ雞卵大空洞アリ。左肋膜戀着アリ。(片側性)	良好	B B B	++
	○	"	3	+	37	0	54					
	○	"	4	+	6	0	56					
39	落勝○	37	1	+	22	0	53	右胸上部濁音ヲ呈シ、「ラ音少許ヲキク。	右肺尖部ヨリ中野ニ亘り增殖性陰翳ヲ見、殊ニ鎖骨下ニ空洞アリ。左肺門陰翳増強ス。(片側性)	良好	B B B	+
	○	"	2	+	32	0	55					
	○	"	3	++	19	0	56					
40	小壽○	18	2	+	134	3	44	左胸部ニ「ラ音少許キク」ノ他著變ナシ。	左肺尖部ヨリ中野ニ亘り陰翳ヲ見殊ニ鎖骨下ニ徑5cm大空洞アリ。(片側性)	良好	C C C	++
	○	"	3	+	112	1	47					
	○	"	4	+	18	1	51					
41	土政○	35	1	++	105	0	45	右左胸部濁音ヲ加シ、「ラ音少許ヲキク。第1回實驗後ヨリ平熱狀態持續ス。	左右兩肺增殖性陰翳ヲ以テ被ハレ殊ニ左肺尖部ニ空洞アルヲ見ル。(兩側性)	稍ヤ良好	D C C	+
	○	"	2	++	97	0	45					
	○	"	3	++	84	0	45					
	○	"	4	+	58	0	47	兩胸部ニ乾性「ラ音ヲキク。	兩肺殊ニ左肺ハ全葉殊ニ鎖骨下ニ雞卵大空洞アリ。右肺門ニ接シ小浸潤ヲ認ム。(兩側性)	不變	C C C	+
	○	"	5	+	50	2	47					
	○	"	6	+	100	2	47					

42	松○ 源○ ○	15 2 ○ △ 3	1 + + 冊	25 34 26	3 2 2	55 55 56	右背下部ニ濁音アリテ「ラ音ヲキク。	右肺門部ニ稍ヤ下部ニ少シク大ナル陰翳アリテ中ニ雀卵大空洞ヲ認ム。(片側性)	良	好	C B B	+
43	酒○ ○ 武○ ○	18 // // //	'' + + +	37 40 44	0 1 1	53 53 54	右胸下部濁音ヲ呈シ、該部ニ「ラ音ヲキク。	右肺下葉ニ浸潤アリテ、中ニ雀卵大空洞ヲ見、左肺門部ヨリ肺内ニ向ヘル浸潤ヲ見ル。(兩側性)	不	變	C C C	+
44	不○ 登○ ○	24 1 ♀ 2	+	78	0	41	左肺尖部濁音ヲ呈ジ、呼吸音微弱ナリ。	兩側上葉ニ小浸潤アリ、殊ニ左肺尖部ニ雀卵大空洞ヲ見ル。(兩側性)	稍ヤ良好	B B	+	+
45	松○ 源○ ○	35 2 ○ △ 3	1 冊 + +	82 100 9	0 0 0	45 47 50	著變ナク、入闈14日後ヨリ平熱状態トナル。	全葉性ニ増殖性陰翳ヲ認め、左肺鎖骨下ニ空洞アルヲ認ム。(全肺野性)	良	好	C C C	+
46	前○ 機○ ○	40 // // //	'' + + +	82 102 44	6 8 7	49 49 52	打診上著變ナシ、兩胸部ニ「ラ音少許ヲキク。體重著シ増加シツツアリ。(第3回實驗後ニ於テ)	兩側性ニ増殖性陰翳ヲ認め左鎖骨下ニ雀卵大空洞ヲ認ム。(兩側性)	良	好	C C B	+
47	平○ 清○ ○	21 // // //	'' + + 冊	10 2 2	0 0 0	51 54 54	右胸上部稍ヤ濁音ヲ呈シ、笛音ヲキク。	右肺尖部ヨリ第3肋間マデ浸潤ヲ見、鎖骨下ニ小空洞ヲ認メ得ベシ。第1回實驗後ヨリ該側ニ人工氣胸中。(片側性)	良	好	C B B	+

第 6 表 無空洞增殖性肺結核患者 S.C.C. 成績 (Nr. 48-96)

54	濱○清○	30 2 2 3	1 +	++ +	60 25 57	0 0 0	56 56 57	左胸上部ニ捻髪音ヲキク。他ニ著變ナシ。	左肺上葉部ニ陰翳アリ漸次減少ノ傾向ヲ観フ。(片側性)	輕 快	C B B	++
55	小○久○	18 " " "	+	+	66 56 54	0 0 0	46 48 50	兩胸上部短音ニシテ、呼吸音粗ナリ。微熱ヲ訴へ居リシモ第2回實驗後ヨリ平熱状態持續ス。	初メ陰翳ハ兩側肺尖部ヨリ中野マデ見タルモ第2回實驗20日後コロヨリ肺尖部ニ限局サル、ニ至ル。(兩側性)	輕 快	C B B	++
56	山○稔○	32 " " "	+	冊 冊 冊	25 18 29	0 0 0	54 55 55	左右上胸部稍ヤ濁音ヲ呈ス。	左右肺尖部ヨリ中野ニ亘リ硬化性浸潤ヲ認ム。(兩側性)	良 好	B B B	++
57	酒○英○	21 2 2	1 ++	++	4 10	0 0	52 53	兩胸上部呼吸音粗ナリ。	左肺尖部ヨリ第2肋間マデ増殖性陰翳ヲ見、右鎖骨下ニ索状陰翳ヲ認ム。(兩側性)	良 好	B B	++
58	國○利○	20 " " "	+	冊 冊	10 2	2 6	45 44	兩肺尖部呼氣延長ス。咳嗽、喀痰少量。	右肺尖部ヨリ中野ニ亘リ硬化性陰翳ヲ認ム。(片側性)	良 好	B B	++
59	庵○興○	19 2 3	1 +	冊 冊 冊	64 20 13	0 0 0	55 56 56	左胸部濁音ヲ呈ス。	左側ニ廣汎性肪膜肥厚アリコレハ漸次稀薄トナル。右肺尖部ヨリ細葉性ノ陰翳見ユレドモ段々吸收ノ傾向アリ(片側性)	良 好	B B A	++
60	松○富○	19 2	1 +	冊 冊	2 4	0 0	43 44	著變ナシ。	左鎖骨下ニ小浸潤見ユ。(限局性)	不 變	B B	++
61	荒○正○	19 2 3	1 +	冊 冊 冊	25 11 15	0 0 0	50 50 50	右胸上部濁音ヲ呈ス。	約1ヶ年前ヨリ右側ニ人工氣胸中ナルモ入闇時ノ所見ハ右肺尖部ヨリ第4肋間マデ陰翳ヲ見タリ。(片側性)	良 好	B B B	+
62	芝○吉○	32 " " "	1 +	冊 冊 冊	14 缺 9	0 0 0	45 45 47	左胸上部稍ヤ濁音ヲ呈ス。	左肺尖部ヨリ第2肋間ニ亘リ増殖性陰翳ヲ認ム。(限局性)	良 好	B A A	-
63	森○修○	19 " " "	1 +	冊 冊 冊	2 4 3	0 2 0	43 43 43	左胸全體濁音ヲ呈シ、「ラ音少許ヲキク。一般ニ呼吸音極メテ微弱ナリ。」	左肺全葉ニ亘リ暗ニシテ結核性陰翳ノ存在不鮮明ナリ。(片側性)	良 好	B B B	++
64	竹○次○	22 " " "	+	++ ++ ++	55 105 25	5 1 0	49 52 54	左背部ニ捻髪音少許ヲキク。	兩側肺尖部ヨリ中野ニ亘リ硬化性ノ陰翳ヲ認ム。(兩側性)	良 好	C B B	++
65	中○蘿○治○	15 " " "	1 +	++ ++ ++	58 29 8	1 0 0	40 43 46	右胸上部濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキク。第1回實驗14日前ヨリ人工氣胸ヲ施行シ平熱状態トナル。」	右肺尖部ヨリ中野ニ亘ル陰翳ヲ見ル。(片側性)	良 好	C B B	+
66	宮○康○	23 " " "	1 +	冊 冊 冊	45 41 12	0 0 0	45 44 44	左胸上部濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキク。」	左肺尖部ヨリ中野ニ亘リ増殖性陰翳アルヲ見、右肺中野ニ小浸潤アリ。(片側性)	不 變	B B B	+
67	松○竹○	22 " " "	1 +	冊 冊 冊	53 34 18	0 0 0	48 50 52	兩胸部呼吸音尖銳ナリ。第2回實驗時頃ヨリ平熱トナル。	兩側肺尖部ヨリ下葉ニ亘リ増殖性陰翳ヲ認ム。(兩側性)	良 好	C B B	++

										C		
68	福○正○ ○ ○	24 2 3	1 2 3	母 母 母	45 13 10	0 0 0	46 48 51	著變ナシ。	左上葉ニヤ、硬化性浸潤アリ。(片側性)	入園時ハ微熱持続セリ、良	B B B	+
69	庄○直○ ○ ○	61 2 3	1 2 3	+	60 23 48	0 0 0	52 52 52	兩側上胸部濁音ヲ呈ス。	兩側肺尖部ヨリ中野ニ亘り硬化性浸潤アルヲ見、胸廓ハセマメラル老人性肺結核ナリ。(兩側性)	不變	B B B	+
70	鶴○實○ ○ ○	28 2	1 2	母 冊	18 19	0 0	43 45	左胸上部稍ヤ濁音ヲ呈シ、「ラ音少許ヲキク。	左肺尖部ヨリ第3肋間マデ増殖性陰翳ヲ見ル。(限局性)	良好	B B	+
71	小○郷○ ○ ○	20 2 3	1 2 3	++ 冊 冊	14 缺 35	0 0 0	47 48 49	左胸上部稍ヤ濁音ヲ呈シ、「ラ音少許ヲキク。	左右肺尖部ヨリ第3肋間マデ増殖性ノ陰翳ヲ見ル。(兩側性)	良好	C B B	+
72	芝○一○ ○ ○	26 1 10	1 2 3	十 母 ++	11 12 10	0 0 0	50 50 51	左胸上部稍ヤ濁音ヲ呈シ、「ラ音少許ヲキク。左胸下部濁音、呼吸音微弱ナリ。	左側鎖骨下部ヨリ第3肋間マデ増殖性陰翳ヲ見、左側肋膜肥厚ス。(片側性)	良好	C B B	+
73	眞○務○ ○ ○	29 2	1 2	+	45 13	2 0	58 58	著變ナシ。	左右全葉ニ亘り、増殖性陰翳ニテ被ハル。(全肺野性)	良好	C C	+
74	南○源○ ○ ○	39 2 3	1 2 3	++ ++ ++	76 75 15	0 0 0	54 56 61	兩側上胸部濁音ヲ呈シ「ラ音ヲキク。	兩側肺尖部ヨリ中肺野ニ亘り稍ヤ増殖性ナル陰翳ヲ認ム。(兩側性)	良好	C B B	+
75	松○ギ○子○ ○ ○	23 2	1 2	母 母	119 85	0 0	46 45	著變ナシ。	右鎖骨下ニ小浸潤アリ第1回實驗3ヶ月前ヨリ該側ニ人工氣胸ヲ行フ(限局性)	良好	B B	+
76	新○已○郎○ ○ ○	37 2 3	1 2 3	++ ++ ++	42 11 20	0 0 0	52 51 52	左胸上部濁音ヲ呈シ、「ラ音アリ。左胸下部濁音ヲ呈シ、呼吸音微弱ナリ。	兩肺上葉下葉部ニ増殖性陰翳アリ且ソ兩側肋膜肥厚セルヲ認ム。(兩側性)	良好	B B B	+
77	戸○多○男○ ○ ○	21 2 3	1 2 3	十 ++ ++	10 7 14	2 0 0	53 54 54	特記スペキコトナシ。	左肺尖部ヨリ第3肋間マデ増殖性陰翳アルヲ見ル。(片側性)	良好	B B B	+
78	菊○政○ ○ ○	21 2 2	1 2 2	十 ++ ++	68 64 77	7 0 0	48 48 50	左胸上部濁音ヲ呈シ、笛音ヲキク。	左肺尖ヨリ中野ニ亘り増殖性浸潤ヲ見、右側肺門部ヨリ肺内ニ向ヘル浸潤稍ヤ増大ス。(兩側性)	良好	C B B	+
79	清○源○ ○ ○	47 2 2	1 2 2	冊 母 冊	69 10 26	5 5 5	43 42 43	右胸上部濁音ヲ呈シ「ラ音ヲキク。	右肺上葉部ニ硬化性浸潤ヲ見ル。(片側性)	良好	B B B	+
80	大○潔○ ○ ○	18 2 2	1 2 2	冊 十 十	36 31 15	10 4 4	48 49 49	兩側肺尖部ニ濁音アリ、左肺尖部ニ「ラ音ヲキク。	右側肺尖部ニ、左側肺尖部ヨリ第2肋間マデ陰翳ヲ見ル。(片側性)	良好	B B B	+
81	寶○脩○ ○ ○	18 2 2	1 2 2	士 十 十	22 64 15	1 0 0	48 49 51	著變ナシ。	兩肺中野ニ増殖性陰翳アルヲ認ム。(兩側性)	良好	B A A	+

82	荒 ○ 脩	26 ○ ○	" ○ ○	# # #	15 11 20	0 0 0	38 38 38	左胸上部ヤ、濁音 ヲ呈シ、該部ニ「 ラ音少許ヲキク。	左肺尖部ヨリ第3肋間マ デ陰翳ヲ認ム。(片側性)	良 好	C B B	+
83	谷 ○ 政	20 ○ ○	1 2 3	# # #	6 6 3	0 0 0	52 52 52	特記スペキコトナ シ。	兩側肺中野ニ増殖性陰翳 ヲ見ル。(兩側性)	輕 快	B B B	+
84	山 ○ 國	22 ○ ○	" ○ ○	+ # #	10 5 19	0 0 0	48 45 46	特記スペキコトナ シ。	兩側上葉部ニ増殖性ノ陰 翳ヲ見ル。(兩側性)	不 變	B B B	+
85	木 ○ 與	37 ○ ○	1 2	# θ	85 60	7 10	50 52	左胸部濁音ヲ呈シ、 呼吸音微弱ナリ。 次第ニ左胸痛輕快 シツツアリ。	左側廣汎性肋膜肥厚ヲ認 メ且ツ上葉ニ浸潤アルヲ 認ム。(片側性)	稍ヤ輕快	C B	+
86	西 ○ 松	21 ○ ○	1 2 3	# # #	13 11 6	0 0 0	54 55 56	著變ナシ。	兩側上葉第3肋間マデ增 殖性ノ浸潤ヲ認ム。 (兩側性)	良 好	B A A	+
87	越 ○ 富	17 ○ ○	" ○ ○	θ θ θ	34 13 10	0 0 0	53 57 59	右胸下部濁音ヲ呈 シ、右背部ニ少許 「ラ音ヲキク。	右肺增殖性浸潤ヲ以テ被 ハル。右肋膜肥厚アリ。 (片側性)	良 好	C B B	+
88	橋 ○ 一	23 ○ ○	1 2	θ θ	37 40	2 0	48 50	兩胸部稍ヤ濁音ヲ 呈ス。兩胸下部ハ 呼吸音微弱ナリ。	左肺尖部ヨリ第2肋間マ デ、又兩肺中部ニヤ、大 ナル硬化性陰翳アリ。 (兩側性)	良 好	D C	+
89	酒 ○ 一	22 ○ ○	1 2 3	# θ θ	18 18 2	0 0 0	54 51 53	著變ナシ。	右肺上葉ニ纖維性ノ浸潤 アリ。左肺下葉ニ稍ヤ大 ナル陰翳アリ。(兩側性)	良 好	B B B	+
90	濱 ○ ツ	27 ○ ○	1 2 3	± + #	90 66 74	0 0 0	49 48 49	特記スペキナシ。 第3回實驗5ヶ月 後ニ肋骨「カリエ ス」ニテ手術ヲナ ス。	兩肺上葉ニ硬化性陰翳ヲ 認ム。(兩側性)	不 變	B B B	+
91	大 ○ ミ ○ イ	21 ○ ○ ○	" ○ ○	# # #	26 35 27	0 0 0	53 54 56	第1回實驗前ヨリ 左肺ニ人工氣胸ヲ 施行中ナルヲ以ツ テ該側呼吸音弱ナ リ。	人工氣胸前ニ透視ニ依レ バ左肺尖部ヨリ第2肋間 ニ亘ル陰翳ナリ。 (限局性)	良 好	B B A	+
92	島 ○ 子	18 ○ ○	1 2	# #	45 36	0 0	40 42	兩側共ニ呼吸音粗、 初メ脈搏100ヲ算 シタレド「ビタミン 剤投興ニヨリ正 常トナル。	増殖性ノ陰翳全葉性ニ見 ラル。(全肺野性)	良 好	C C	#
93	北 ○ 雄	18 ○ ○	1 2 3	± ± +	60 55 34	7 2 0	52 52 52	特記スペキコトナ シ。	左上葉第3肋間マデ右肺 尖部ニ陰翳アリ。 (兩側性)	人工氣胸 經過中ニ シテ 良	B B B	+
94	本 ○ 則	15 ○ ○	" ○ ○	# 冊 冊 θ	25 30 34	0 0 0	37 37 37	左胸下部ヤ、濁音 ヲ呈シ、呼吸音微 弱ナリ。	左肋膜肥厚。右側下葉ニ 小浸潤アリ。(限局性)	良 好	B B B	+
95	北 ○ 瀬	22 ○ ○	1 2	± +	60 50	5 3	45 45	右胸上部濁音ヲ呈 ス。	右肺尖部ヨリ中野ニ亘 リ陰翳ヲ見ル。(片側性)	右側ニ人 工氣胸 經過中 良	B B	+

96	中 ○ 政 ○	29 2 3	1 冊 冊	9 12 15	1 2 4	41 41 41	兩胸部濁音アリ。 該部呼吸音微弱。 全胸部ニ亘り少許 宛「ラ音ヲキク。	全葉性ニ増殖性浸潤アリ。 兩側肋膜肥厚ヲ認ム。 (全肺野性)	良 好	C B B	+
----	------------------	--------------	-------------	---------------	-------------	----------------	--	--------------------------------------	--------	-------------	---

第7表 有空洞滲出性肺結核患者 S.C.C. 成績 (Nr. 97-140)

番號	氏名	年 回	S.C.C. 成績	赤沈 速度 (mm)	「ガフ キー氏 表(號)	體重 (kg)	主タル臨床所見	X線透視像	經過	作業 階級	「マ 氏反 應
97	澤 次 ○	33 2	1 十 十	120 132	4 8	36 36	兩胸部濁音ヲ呈シ、「ラ 音多數ヲキク。發熱 38°C 前後脈搏110前後。 下痢便1日3-4回。 咳嗽、喀痰多量、第1 回實驗時コロヨリ喉頭 結核トナル。	兩肺陰翳ヲ以テ被 ハレ兩鎖骨下ニ雞 卵大空洞1ヶ宛見 ル。(全肺野性)	第2回實 驗33日後 ニ死亡	D D	-
98	去 ス ○ 予	14 2 3	1 十 十	47 99 50	2 6 4	45 46 45	兩胸中部ニ「ラ音ヲキ ク。微熱狀態持續。	左右兩肺中野ニ浸 潤ヲ認メ左肺ニ雞 卵大空洞1ヶヲ認 ム。(兩側性)	稍ヤ良好	C C B	+
99	山 吉 ○	33 // //	1 冊 冊	45 85 62	4 5 1	68 65 63	兩胸部濁音ヲ呈シ、「ラ 音ヲキク。初メ無熱狀 態ニ經過セシモ、初回 實驗約1ヶ月後ニ大喀 血アリテ以來退闊ニ至 ルマデ中等度ノ高熱去 ラズ。咳嗽、喀痰多量 ナリ。	兩肺浸潤ヲ以テ被 ハレ殊ニ左鎖骨下 ニ大ナル空洞ヲ見 ル。(全肺野性)	增 惡	B C C	+
100	上 ○ 美 ○	19 2	1 十 士	78 70	10 10	42 40	兩胸部「ラ音多數ヲキ ク、發熱38°C 前後。 初回實驗約1ヶ月前ヨ リ下痢便1日2-3回 アリ。	兩側浸潤ヲ以テ被 ハレ右鎖骨下ニ空 洞ヲ見ル。(全肺野性)	增 惡	D D	-
101	森 ○ 鈴 ○	28 2 3	1 冊 冊	55 70 72	3 8 2	47 45 45	左胸部濁音ヲ呈シ、「ラ 音多數ヲキク。第3回 實驗20日後位ヨリ咳嗽、 喀痰稍多量。	初メ左肺全葉殊ニ 鎖骨下ニ大空洞ヲ 見タレドモ第2回 實驗間モ無ク右鎖 骨下ニ浸潤ヲ見ル ニ至ル。(兩側性)	增 惡	B B C	+
102	松 ○ 守 ○	26 // //	1 十 十	18 34 12	1 0 0	50 48 47	右胸下部濁音、呼吸音 弱、左胸上部濁音、「 ラ音多數アリ。咳嗽、 喀痰中等量、時々血痰 ヲ出ス。	右肋膜肥厚ス、左 肺尖部ヨリ第2肋 間マデ陰翳ヲ見、 中ニ雞卵大空洞ヲ 見ル。(片側性)	稍ヤ增 惡	C C C	+
103	四 ○ 万 ○ 敏	29 2 3	1 冊 冊	60 33 27	6 7 5	35 35 35	右胸部一般ニ濁音ヲ呈 シ、左胸ニ於テハ「ラ 音多數ヲキク。輕熱持 續シ、脈搏110前後、 咳嗽、喀痰少量。	兩肺全部陰翳ヲ以 テ被ハレ左肺ニ雀 卵大空洞1ヶアリ。 (全肺野性)	不 變	C C C	+
104	土 ○ 吉 ○	28 // //	1 冊 冊	95 110 108	4 0 2	37 38 38	左右兩胸部ニ「ラ音ヲ キク。無熱狀態ナルモ 咳嗽、喀痰アリ、且ツ 時々血痰ヲ喀出ス。	左肺尖部ヨリ全葉 ニ亘り鎖骨下 ニハ大小空洞1ヶ 宛アリ。右肺尖部 ヨリ第2肋間マデ 浸潤ヲ見ル。 (兩側性)	初メ輕熱ヲ 見タルモノ ナリモ初回 實驗時頃ヨ リ無熱トナ リタルモノ ナリ。 稍ヤ良好	C B B	+
105	上 ○ 三 ○ ○	28 2	1 冊 冊	87 89	10 3	57 56	右胸下部呼吸音尖銳、 左胸ニ「ラ音多數ヲキ ク。	左右肺尖部ヨリ中 野ニ亘り陰翳アリ、 左鎖骨下ニ雞卵大 空洞アリ。 (兩側性)	不 變	D D	-

106	三〇ヨシ	23 2 3	1 + +	90 110 65	5 7 6	43 42 41	右胸濁音ヲ呈シ、「ラ音多數、左胸部呼吸音延長ス。38°C 内外ノ發熱アリ。咳嗽、喀痰甚ダシ。	兩肺全葉陰翳ヲ以テ被ハル。右肺上葉、左肺門部ニ1ヶ宛ノ空洞ヲ見ル。(全肺野性)	第3回實驗2週間後ニ死亡	C D D	-
107	竹市	27 2	1 土 土	60 20	4 10	42 40	左右胸部「ラ音少許。初回實驗3ヶ月前ヨリ下痢便1日4—5回アリ。38°C 前後ノ發熱持続ス。	兩側肺尖部ヨリ中野マデ陰翳アリ殊ニ右肺ニ雀卵大空洞1ヶアリ。(兩側性)	増 悪	D D	+
108	柏直	20 2	1 θ θ	73 84	10 4	43 42	兩胸全體ニ亘リ「ラ音ヲキ。輕熱持續シ、第1回實驗1ヶ月後ヨリ血痰、咳嗽甚ダシ。又下痢便1日1—2回ヲ見ル。	全葉性ニ陰翳ヲ見、左肺鎖骨部ニ雀卵大空洞ヲ見ル。(全肺野性)	第2回實驗3ヶ月後死亡	D D	-
109	池利	30 2	1 + +	70 70	8 7	40 40	右側濁音ヲ呈シ、「ラ音多數。微熱狀態ヲ持續シ、咳嗽、喀痰多量、時々血痰ヲ見ル。	右肺全葉性ニ陰翳ヲ見、左肺門陰翳増強ス。右肺鎖骨部ニ雀卵大空洞アリ。(片側性)	第2回實驗5日後死亡	D D	+
110	二〇谷作	18 2	1 θ θ	110 117	10 10	44 42	兩胸上部ニ「ラ音ヲキ、38°C 前後ノ發熱持續ス。咳嗽、喀痰稍ヤ多量、下痢便ヲ訴フ。	兩肺陰翳ヲ以テ被ハル。右鎖骨下ニ空洞アリ。(全肺野性)	第2回實驗10日後死亡	D D	-
111	杉○健	28 2 3	1 θ θ	65 73 62	3 2 3	52 52 51	右胸上部濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキ。微熱狀態ナリ。腎臟結核ヲ合併ス。	右肺尖部ヨリ中野ニ亘リ陰翳ヲ見中ニ雀卵大空洞アリ。兩肺下葉ニ小浸潤アリ。(兩側性)	不 變	C C C	+
112	多○恭	29 2	1 θ θ	111 93 83	0 1 3	42 43 43	右胸部稍ヤ濁音ヲ呈シ「ラ音多敷ヲキ。左胸部呼氣延長。咳嗽、喀痰、多量。發熱高度、脈博130。第1回實驗10日後コロヨリ腸結核トナル。	兩側肺尖部ヨリ下葉ニ亘リ陰翳アリ右鎖骨下ニ雀卵大空洞アリ。(兩側性)	不 良	C D D	+
113	中好	19 2	1 + +	125 132 130	1 2 3	44 46 45	左胸部濁音ヲ呈シ「ラ音多敷アリ。輕熱狀態持續。咳嗽、喀痰、少許。	左肺全葉ニ亘リ浸潤アリテ、鎖骨下ニ空洞アリ。右肺門陰翳増強ス。(片側性)	不 變	D D D	+
114	長川	18 2	1 + +	60 60 90	1 0 0	37 36 36	右胸全體ニ「ラヲキ、同下部濁音ヲ呈ス。輕熱ヲ訴ヘ、下痢便アリ。咳嗽、喀痰少々。	右肺全葉ニ亘リ陰翳ヲ見、左肺ハ中野ノミニ浸潤アリ。左右兩肺ニ空洞1ヶ宛アリ。(兩側性)	惡 化	C C D	+
115	細鐵	19 2	1 + +	14 8 19	0 0 0	36 36 36	血痰持續中。	左肺尖部ヨリ中野ニ亘リ陰翳ヲ見、上部ニ空洞アリ。(片側性)	不 變	D D D	-
116	奥順	25 2	1 θ θ	50 64 98	2 1 1	40 40 40	兩胸上部ヤ、濁音ヲ呈シ「ラ音少許キコユ。微熱狀態持續シ、咳嗽、喀痰少許。	兩側肺尖部ヨリ中野ニ亘リ浸潤アリ、左肺ニ空洞ヲ見ル。(兩側性)	良 好	D C C	+
117	荒敏	26 2	1 + +	50 30 52	7 5 3	39 41 42	兩胸部濁音ヲ呈シ、「ラ音多敷ヲキ。第2回實驗頃ヨリ下熱シ平熱或ハ微熱狀態トナル。	兩側肺陰翳ヲ以テ被ハレ殊ニ左鎖骨部ニ空洞ヲ見ル。(全肺野性)	良 好	C B B	+
118	佐義	22 2	1 θ +	41 41	4 8	46 47	右胸下部濁音ヲ呈シ呼吸音弱。右胸下部ニ「ラ音多敷、輕熱持續シ、第2回實驗20日後コロヨリ高熱下痢ヲ訴フ。	左肺中野、右肺下野ニ陰翳アリテ右肺下野ニハ雀卵大空洞ヲ認ム。(兩側性)	第2回實驗1ヶ月後ニ體重44kgトナル。惡化	C D	+

119	渡○隆○	24 ○ △	1 2 3	土 + +	69 75 65	5 6 4	52 52 54	左胸部濁音ヲ呈シ、「ラ音アリ初メ發熱37.5°C位ナリシモ第2回實驗前ヨリ稍ヤ下熱ス。	左肺尖部ヨリ第3肋間頃マデ浸潤アリ。鑑骨部ニ雛卵大空洞ヲ見ル。(片側性)	稍ヤ良好	C C C	冊
120	守○男○	21 ○ △	"/ " "	+ θ +	16 7 4	0 0 0	49 51 52	左胸部濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキク。平熱状態ニ經過スルモ血痰屢々アリ。	左肺上葉ニ浸潤アリ。兩側肺門腺炎衝性ニ腫大ス。(片側性)	稍ヤ良好	C C C	+
121	新○孝○	24 ○ △	"/ " "	冊 + +	85 115 102	7 8 10	45 45 44	左胸部稍ヤ濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキク。右胸部濁音アリ。呼吸音微弱、輕熱持續シ、咳嗽、喀痰稍ヤ多量。	左右兩肺陰翳ヲ以テ被ハレ、左肺門部ニ空洞アリ。(全肺野性)	第3回實驗1ヶ月後ニ死亡	C D D	+
122	小○ト○女○	21 ○ △	1 2	θ 冊	100 88	4 3	38 37	兩胸部至ルトコロニ「ラ音ヲキク。輕熱状態持續、脈搏120前後、咳嗽、喀痰少量。	全葉性ニ陰翳ヲ見、左肺ニ小空洞2-3ヶ見ル。(全肺野性)	第2回實驗20日後増惡退闊	C D	+
123	森○善○	20 ○ △	1 2 3	冊 + +	23 17 17	7 0 2	52 53 54	右胸中部呼吸音粗、輕熱状態持續。咳嗽、喀痰、少量。	右肺門部ニ接シ下方ニ浸潤アリ。中ニ雛卵大空洞アリ。(片側性)	稍ヤ良好	C C C	+
124	池○豊○	38 ○ △	"/ " "	+ + +	70 9 64	7 7 7	45 47 50	左胸部稍ヤ濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキク、輕熱持續ス。	左右肺尖部ヨリ中野ニ亘リ陰翳アリ。左肺鎖骨下ニ空洞アリテ中ニ瀦溜液アルヲ認ム。(兩側性)	不變	C C C	+
125	山○勇○	35 ○ △	1 2	θ 土	116 55	5 10	42 41	兩胸部ニ「ラ音多數ヲキク。輕熱持續シ、咳嗽、喀痰甚ダシク血痰時々アリ。	左右中肺野ニ大ナル軟陰翳アリ、殊ニ右肺ニ雛卵大空洞アルヲ認ム。(兩側性)	增悪	C D	+
126	丸○未○	27 ○ △	1 2 3	冊 + +	62 68 60	3 8 2	44 43 43	右胸部濁音ヲ呈シ、「ラ音多數ヲキク。輕熱状態持續シ、血痰、喀痰時々。	右肺全葉ニ亘リ陰翳ヲ見、中野ニ大ナル空洞アリ。左肺上葉ニ小浸潤アリ。(兩側性)	不變	C C C	+
127	大○正○	18 ○ △	"/ " "	土 + 土	60 43 37	0 8 0	42 43 44	左胸部濁音ヲ呈シ、呼吸音延長ス。中等度ノ發熱アリシモ第3回實驗前ヨリ平熱状態トナル。	左肺全葉ニ陰翳アルヲ認メ中ニ小空洞1ヶアルヲ見ル。(片側性)	稍ヤ良好	C C B	+
128	和○政○	52 ○ △	"/ " "	+ + +	72 62 63	10 10 7	53 52 53	兩胸部稍ヤ濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキク。	左側右側全葉ニ亘リ陰翳ヲ見、左鎖骨下ニ大、小空洞3ヶ認メ右肺ニ於テハ肺門部ニ接シ浸潤アリ。(全肺野性)	不變	C C C	+
129	松○壽○	25 ○ △	1 2	冊 冊	101 70	4 6	45 40	左胸部濁音ヲ呈シ、「ラ音多數、初メ平熱ナリシモ第1回實驗後ヨリ輕熱シ、キ加フルニ食慾不振ヲ訴フルニ至ル。	左肺全葉性ニ陰翳ヲ見、鎮骨下ニ大、小空洞3ヶ認メ右肺ニ於テハ肺門部ニ接シ浸潤アリ。(兩側性)	第2回實驗2ヶ月後ニ死亡	C D	+
130	井○美○子○	31 ○ △	1 2	+	116 80	10 7	40 35	兩胸部殊ニ左側ニ濁音ヲ呈シ多數ノ「ラ音アリ。發熱38°C持続、下痢便1日2-3回訴へ體重減少著明ナリ。	左肺全葉性ニ陰翳アリ、中野ニ空洞ヲ認ム。右肺門部ニ接シ細葉性ノ浸潤ヲ見ル。(兩側性)	第2回實驗7日後死亡	D D	+
131	城○武○	18 ○ △	1 2 3	++ ++ +	61 36 25	7 0 8	43 41 41	全胸至ルトコロニ「ラ音ヲキク、微熱ヲ訴ヘツ、アリ。	全葉性ニ陰翳ヲ見、殊ニ左肺中野ニ空洞アルヲ認ム(全肺野性)	增悪	D D	+

132	岡○政△	23 " " "	士	65	5	48	兩胸上部ニ濁音ヲ呈シ、「ラ音多數聽取シ得。微熱狀態ニ經過ス。	兩側上葉ニ軟陰翳アリ、殊ニ右鎖骨部ニ雞卵大ノ空洞アリ。(兩側性)	不變	C C C	+
133	河○オト○	30 ♀ 2	士	126	5	40	全胸部濁音ヲ呈シ「ラ音多數輕熱狀態持續	全葉性ニ陰翳ヲ見、且ツ左肺尖部雞卵大ノ空洞アルヲ見ル。(全肺野性)	ヤ、良好	C C	++
134	原○枝△	22 2 3	士	44 65 60	4 8 8	46 46 45	右胸上部濁音ヲ呈シ「ラ音多數アリ。體溫ハ普通、タゞシ脈搏ハ90以上ヲ算ス。	右肺ハ全葉中ニ空洞ヲ見ル。左肺ハ下葉ニ浸潤アリ。(兩側性)	不變	C C C	++
135	勝○美○子	22 " " "	士	52 57 29	0 0 8	47 48 47	左胸上部ニ濁音アリ「ラ音ヲキク。	左肺尖部ヨリ第2肋間マデ陰翳アリ、雀卵大ノ空洞ヲ有ス。(片側性)	不變	B B B	++
136	佐○ミ○	19 ♀ 2	士	120 124	4 0	43 42	兩胸上部ハ濁音ヲ呈シ「ラ音多數ヲキク。	左右肺尖部ヨリ第3肋間マデ陰翳アリ、右ニ2ヶ左ニ1ヶノ空洞ヲ有ス。(兩側性)	ヤ、增悪	C D	+
137	森○鎗○	21 2 3	士	55 80 82	6 8 2	47 46 47	左胸全體、右胸上部ニ「ラ部ヲキク。	左肺全葉ニ陰翳ヲ見、且ツ上葉ニ空洞アリ。右肺上葉ニ浸潤ヲミル。(兩側性)	不變	C C C	++
138	平○龍△	27 " " "	士	78 68 70	10 10 10	52 51 48	兩側胸部濁音ヲ呈シ、「ラ音多數アリ。輕熱狀態持続シ、咳嗽、喀痰稍ヤ多シ。	全葉性ニ陰翳アリ。左肺上部ニ雞卵大空洞アリ。兩側肋膜肥厚ヲ認ム。(全肺野性)	次第ニ增悪	D D D	-
139	富○七○	37 " " "	士	60 55 65	6 5 10	44 43 44	左胸部濁音ヲ呈シ「ラ音アリ。	左肺全葉性ニ浸潤ヲ見、上中野ニ1ヶ宛空洞アルヲミトム。(片側性)	不變	C C C	++
140	河○幸○	37 ♂ 2	士	103 63	10	47 48	左右上胸部濁音ヲ呈シ、「ラ音多數ヲキク、初メ輕熱ヲ訴ヘ居リシモノ第2回實驗時ニハ平熱トナル。	兩側上葉ニ陰翳アリ、殊ニ左上葉ニハ空洞アルヲ認ム。(兩側性)	稍、良好	C B	++

第8表 無空洞滲出性肺結核患者 S.C.C. 成績 (Nr. 141-216)

番號	氏名	年回	S.C.C. 成績	赤沈 速度 (mm)	「ガフ キー氏 表(號)	體重 (kg)	主タル臨床所見	X線透視像	經過	作業 マ 氏反 階級	
141	長○松△	1	+	16	9	59	全胸部「ラ音多數ヲキク、經過順調ナリシモノ、第2回實驗20日後頃ヨリ輕熱ヲ訴ヘ食慾減退スルニ至ル。	(全肺野性)	第3回實驗2ヶ月後死亡セリ	C D D	++
		2	士	40	10	59					
		3	士	62	10	58					
142	蘭○猪○助	32 ♂ 2	士	89	5	45	右胸部濁音ヲ呈シ呼吸音尖銳ナリ。輕熱持続シ、第2回實驗時頃ヨリ下痢便ヲ訴フ。	右肺全葉ニ亘リ左肺門部ヨリ肺内ニ浸潤増強ス。(兩側性)	第2回實驗56日後ニ死亡セリ	C C	+
		19 " " "	士	80	5	45					
143	竹○正○	19 " " "	士	38	2	48	第1回實驗前頃マデハ輕熱ヲ訴ヘオリシモノナリ。	左肺中野ニ大ナル浸潤、右肺尖部ヨリ中野ニ亘リ陰翳アリ。(兩側性)	稍ヤ良好	C B	++

144	諸○英○	21	〃	+	87	4	35	左胸部濁音ヲ呈シ「ラ音多數，輕熱持續シ食慾ナシ。	左肺尖部ヨリ中野ニ亘リ，右肺ニハ細葉性ノ陰翳ヲ見ル。(兩側性)	第2回實驗18日後死亡	D D	+
145	林外○郎○	40	1 2	+	94 45	2 5	47 45	兩胸部濁音ヲ呈シ「ラ音多數，輕熱持續，第1回實驗後ヨリ咳嗽，喀痰多量，第3回實驗21日後コロヨリ，腹膜炎ノ傾向アリ，腹水空刺2回，食慾漸次不良トナル。	(全肺野性)	第3回實驗115日後死亡	D D D	+
146	竹○ア○	25	〃	冊 +	43 27	0 0	37 37	兩側上胸部濁音ヲ呈シ「ラ音ヲキク，輕熱狀態持続。	兩側肺尖部ヨリ第3肋間マデ陰翳アリ。(兩側性)	不 變	C C C	+
147	水○新○	34	1 2	+	86 85	8 6	48 48	兩胸部濁音ヲ呈シ「ラ音少許アリ。發熱38°C以上，咳嗽，喀痰アリ，咳嗽ハ益々劇シクナル。	(全肺野性)	增 惡	D D	+
148	庭○興○	25	〃	+	60	0	45	兩胸部ニ「ラ音ヲキク，發熱36→38°C，下痢便1日3-4回，咳嗽，喀痰少許。	兩肺尖部ヨリ中野迄浸潤ヲ見ル。(兩肺性)	第2回實驗12日後死亡	D D	+
149	南庄○	21	〃	土	74	10	37	右胸下濁音ヲ呈シ呼吸音弱，右胸全體「ラ音ヲキク。輕熱ヲ發シ，咳嗽，喀痰少許，實驗前ヨリ喉頭結核アリ，第2回實驗後ヨリ1日3-4回下痢便アリ。	右肺全葉又肋膜肥厚，左肺上葉ヨリ中野ニ陰翳アリ。(兩側性)	第2回實驗21日後死亡	D D	+
150	平○正○	28	〃	θ	70	4	52	右胸濁音ヲ呈シ，呼吸音微弱ナリ。實驗前ヨリ喀血，血痰持續ス。發熱38°C前後，咳嗽，喀痰多量。	兩肺ハ浸潤ヲ以テ覆ハレ右肋膜肥厚ス。(兩側性)	惡 化	D D	+
151	上○孝○	22	1 2 3	士 +	65 67 35	8 7 6	56 53 52	右胸呼吸音尖銳，入園來輕熱持續シ，第1回實驗20日後頃ヨリ咳嗽，喀痰甚ダシ。	兩側肺尖部ヨリ中野ニ亘リ浸潤ヲ見ル。(兩側性)	惡 化	C D D	+
152	竹○文○	26	〃	+	99	9	36	微熱ヲ訴フルノミ。	左鎖骨部ヨリ中野ニ亘リ陰翳ヲ認ム。(片側性)	不 變	C C C	+
153	鶴○治○	21	〃	冊 +	81 90	6 2	43 41	左胸部ニ「ラ音多數ヲキク。第3回實驗後ヨリ下痢便1日3-4回アリ，38°C前後ノ發熱ヲ訴フルニ至ル。	兩肺全葉ニ浸潤アリ。(全肺野性)	第3回實驗4ヶ月後死亡ス	C C C	+
154	松○治○	18	1 2	+	16 42	3 3	36 35	左胸部濁音ヲ呈シ，「ラ音無數，輕熱狀態持續シ，血痰時々，第2回實驗時ヨリ下痢便ヲ訴フ。	左肺全葉，右肺上葉ニ小浸潤アリ。(兩側性)	第2回實驗4ヶ月後死亡	D D	+
155	原○好○	23	1 2	士 士	73 96	3 0	38 38	兩胸部濁音ヲ呈シ「ラ音無數，輕熱持續，咳嗽，喀痰少々。	兩肺陰翳ヲ以テ被ハレ，殊ニ左肋膜肥厚ス。(全肺野性)	不 變	C C	冊
156	東○キ○	32	〃	+	80	3	32	兩胸部呼吸音微弱，微熱狀態持續ス。	兩肺陰翳ヲ以テ覆ハル。(全肺野性)	不 變	C C	+
157	福○フ○	25	〃	θ +	68 90	3 2	41 38	兩胸部濁音ヲ呈シ，「ラ音無數，輕熱狀態持續，第1回實驗2週間後コロヨリ下痢便ヲ訴フ，咳嗽少々。	左肺全葉，右肺内陰翳増強ス。(片側性)	增 惡	C D	+

158	皆○房○ 女○	35 " "	士	60	0	33	右胸部濁音ヲ呈シ「ラ音無數，輕熱状態持續シ，咳嗽，喀痰ヤ、多量，入園來下痢1日5-6回アリ。」	右肺全葉陰翳ニテ覆ハル。(片側性)	死亡第2回實驗7日後死亡	D D	+
159	佐村○ 三○ 女○	17 " "	士	105	5	38	兩胸部濁音ヲ呈シ，「ラ音無數，輕熱ヲ訴ヘ居ルモノチニ高熱持続ス。咳嗽，喀痰少量。入園來下痢1日2-3回。」	兩側肺浸潤ニテ被ハル。(全肺野性)	死亡第2回實驗45日後死亡	D D	-
160	松熊○ ♂○	19 " "	士	96 85	4 4	39 39	兩胸部濁音ヲ呈シ，「ラ音多數ヲキ、發熱37-39°Cヲ上下ス，下痢便ヲ訴フ。」	(全肺野性)	喀血死第2回實驗50日後死亡	D D	+
161	濱彌○ ♂○	20 2 3	冊	105 105 98	4 6 5	41 41 38	兩胸下部濁音ヲ呈シ，右肺ニハ「ラ音多數，高熱状態持続シ咳嗽，喀痰多量。」	(全肺野性)	增 惡	D D D	+
162	青井○ カ○ ♀○	36 1 2	冊	94 68	5 7	38 36	兩胸部濁音ヲ呈シ，呼吸音微弱ナリ，發熱38°C前後，脈搏110以上，下痢便ヲ訴フ。」	(全肺野性)	第2回實驗20日後死亡增惡	D D	+
163	東○榮○ ♂○	25 2 3	士	109 75 80	5 8 2	44 43 42	兩胸部稍ヤ濁音ヲ呈シ，「ラ音多數ヲキ。39°C前後ノ發熱ヲ見，脈搏110前後，第2回實驗後頃ヨリ下痢便ヲ訴ヘ，咳嗽，喀痰多量ナリ。」	(全肺野性)	第3回實驗14日後死亡增 惡	D D D	+
164	中○庄○ ♂○	20 2 3	士	82 111 100	7 7 7	42 43 44	左胸下部ニ「ラ音多數アルヲキク，輕熱状態持続。咳嗽，喀痰少々。第2回實驗後ヨリ氣胸施行，該側呼吸音微弱。」	左肺中野ニ手掌大ノ陰翳ヲ見ル。(片側性)	不 變	C C C	+
165	白○政○ ♂○	26 1 2	冊	80 56	6 2	49 49	3ヶ月前ニ腸結核ノ手術ヲ行ヒ其レ以來輕熱持続ス。	兩肺尖部ヨリ第2肋間マテ細葉性ノ浸潤アリ。(兩側性)	不 變	C C	+
166	結嘉○ ○ △○	52 2 3	士	91 98 103	7 4 2	43 44 43	右胸上部ニ「ラ音アリ。輕熱ヲ訴ヘ，咳嗽，喀痰アリ。左胸下部濁音呼吸音微弱ナリ。」	兩肺尖部ヨリ中野ニ亘り浸潤ヲ見，殊ニ左肺ニ肥厚アリ。(兩側性)	不 變	C C C	+
167	濱○ス○ ♀○	36 1 2	士	120 124	3 3	35 32	左胸部濁音「ラ音多數ヲキク，右胸下部「ラ音少音，入園來輕熱持續シ咳嗽，喀痰甚ダシ。」	左肺全葉ニ亘り浸潤ヲ認メ，右肺ニ於テハ上葉ニ下葉ニ細葉性ノ浸潤ヲ認ム。(兩側性)	惡 化	C D	+
168	藤○ハ○ ♀○	20 2 3	士	85 98 40	8 8 8	32 30 28	左胸部濁音ヲ呈シ，「ラ音ヲキク，38°C前後ノ發熱持続シ，咳嗽，喀痰稍ヤ多量，下痢便1日2-3回訴フ。」	左肺ハ全葉ニ亘り右肺門部淋巴腺炎衝ニ腫大シ，漸次增加ノ傾向アリ。(兩側性)	惡 化	C D D	+
169	大○ス○ ♀○	18 1 2	冊	12 4	0 0	42 44	第1回實驗2ヶ月前ヨリ右側ニ人工氣胸中ナルガ故ニ該側ハ呼吸音微弱ナリ。」	入園時右肺門部ニ接シ同側中野ニ軟陰翳ヲ認メタルナリ。(限局性)	軟 快	B B	+
170	淺○ミ○ ♀○	28 1 2	士	32 62	3 4	45 46	微熱持續ス。	右側肺門部陰翳増強シ上野ノ浸潤ト連絡ス，左肺上葉ニモ浸潤ヲ見ル。(兩側性)	不 變	C C	+
171	山○タ○ ♀○	30 1 2	士	58 缺	7 10	39 38	全胸部濁音ヲ呈シ「ラ音無數，體溫38°C前後，脈搏120，咳嗽，喀痰多量，軟便1日ニ2-3回，第2回實驗前ヨリ下痢1日2-3回。」	兩肺全葉陰翳ヲ以テ被ハル。(全肺野性)	惡化第2回實驗1週間後ニ死亡	D D	+

172	高 ○ 作 ○	27 1 2	θ θ	70 25	7 8	41 42	左胸部呼吸音尖銳，右胸ニ笛音ヲキク。輕熱持續シ，咳嗽，喀痰可成アリ。	左右全葉性ニ浸潤ヲ見ル。 (全肺野性)	ヤ、良好	C C	+
173	林 ○ 穂 ○	21 2 3	1 卅 卅	41 47 18	0 2 1	54 54 54	左胸部濁音ヲ呈シ「ラ音少許，輕熱狀態持續シ，血痰時々アリ。	左肺尖部ヨリ下葉ニ亘ル浸潤。右肺門腺ハ炎癆性ニ増大セルヲ見ル。 (片側性)	不 變	C C C	+
174	高 見 ○ オ ♀	24 "/ "	θ θ θ	100 70 80	6 2 4	44 45 45	兩胸部濁音ヲ呈シ捻髮音「ギーメン」ヲキク，輕熱持續シ血痰時々。	左右全葉性ニ陰翳ヲミル(全肺野性)	不 變	C C C	+
175	表 ○ ア ♀	20 "/ "	士 士 +	120 110 136	10 7 7	41 39 39	兩胸部ニ於テ上部及ビ中部濁音ヲ呈シ，「ラ音多數ヲキク，38°C前後ノ發熱持続シ，咳嗽，喀痰多量。	兩側全葉性ニ浸潤ヲ見ル。 (全肺野性)	增 惡	D D D	-
176	藤 ○ 伴 ○	28 "/ "	+	27 22 37	4 0 0	56 58 57	左胸部呼吸音尖銳，右胸下部呼吸音弱，輕熱持續，血痰時々。	兩肺尖部ヨリ中野ニ亘リ陰翳ヲ認ム。 (兩肺性)	不 變	C C C	+
177	佐 ○ チ ○	20 "/ "	+	41 88 72	1 0 2	38 39 38	右鎖骨下ニ「ラ音アリ，輕熱持續，咳嗽，喀痰アリ，第1回實驗頃ヨリ下痢便ヲ訴フ。	右肺尖部ヨリ同中野ニ亘リ浸潤ヲ認ム。 (片側性)	ヤ、增惡	C C C	+
178	島 ○ 榮 ○	41 "/ "	θ 卅 卅	70 20 91	2 2 0	42 43 43	右上胸部濁音ヲ呈シ，「ラ音アリ，發熱37.5°C前後。	右肺尖部ヨリ同中野ニ亘リ浸潤ヲ認ム。 (片側性)	不 變	C C C	-
179	小 ○ ス ○	15 2 3	1 卅 θ	76 25 76	1 1 5	39 39 38	右胸部濁音ヲ呈シ呼吸音尖銳，輕熱又ハ高熱持續，痔瘻アリ。	初メ右肺全葉ノ陰翳ナリシモ第1回實驗頃ヨリ左肺モ病竈アラハレ兩肺侵サル、ニ至ル。 (全肺野性)	增 惡 第3回實驗3ヶ月後退闇	D D D	-
180	越 ○ 辰 ○	20 "/ "	士 θ θ	120 130 118	0 0 0	31 30 30	全胸部ニ「ラ音ヲキク，第2回實驗後ヨリ熱ハ38.5°Cヲ上下シ，脈搏110前後，下痢便1日數回ヲ訴フ。	全葉性ニ陰翳アリ。 (全肺野性)	增 惡 第3回實驗3週間後退闇	D D D	-
181	寺 ○ 吉 ○	21 "/ "	+	78 77 100	10 10 10	56 55 54	兩胸部呼吸音粗，第1回實驗頃ヨリ輕熱ヲ發シ持續ス，第2回實驗頃ヨリ下痢便1日3—4回訴フルニ至ル。	全葉性ニ陰翳アリ。 (全肺野性)	第3回實驗2ヶ月後ニ死亡セリ。	D D D	+
182	唐 ○ シ ○	22 "/ "	θ θ θ	50 74 89	0 4 2	47 48 48	左胸部ニ「ラ音ヲキク輕熱狀態持續ス。	左肺中野ニヤ、廣汎性ニ陰翳ヲ認ム。 (片側性)	不 變	C C C	+
183	倉 ○ ○	24 2	1 θ	60 70	3 3	48 48	輕熱持續シ第2回實驗10日程前ヨリ稍ヤ下熱シ37°C位。	右肺中野ニ大ナル陰翳ヲ認メ，右肋膜癓着アリ。 (片側性)	稍ヤ良好	C B	+
184	山 ○ 興 ○	34 3	1 +	43 70	5 0	46 44	左肺濁音ヲ呈シ左右共「ラ音多數ヲキク，輕熱アリテ咳嗽甚ダシク衰弱日ニ加ハル。	全葉性ニ陰翳ヲ見ル。 (全肺野性)	增 惡	C D	+
185	八 ○ ハ ル ○	26 2 3	1 卅 士	48 44 缺	2 9 8	38 40 35	左胸上部濁音ヲ呈シ「ラ音多數，輕熱ヲ訴へ，下痢便1日數回アリ。	左肺ハ全葉性ニ陰翳アリ，初メ右肺ハ下葉ノミニ浸潤ヲ認メタルモ，初回實驗前ヨリ右肺上葉ニモ浸潤アラハレ終ニ全葉ニ擴マル。 (全肺野性)	增 惡 第3回實驗8ヶ月後退闇セリ	C D D	+

186	森○キ○ ♀	15 2	1 0	36 43	0 2	41 41	左胸部ヤ、濁音ヲ呈シ「ラ音ヲキ、微熱状態ツミク。	左肺尖部ヨリ中野ニ亘リヤ、硬化セリ浸潤アリ、右肺上葉部ニ大ナル浸潤。(兩側性)	不 變	C C	+	
187	横○風○ ♂	19 2 3	1 2 +	土 土 +	30 12 29	0 2 1	44 45 45	微熱状態持続ス。	兩肺尖部ヨリ中野下ニ亘ル陰翳ヲ見ル。(兩側性)	不 變	C C C	-
188	中○外○ ♂	27 2	1 +	冊 +	30 30	8 10	45 45	兩胸部ニ少許ノ「ラ音ヲキク。	兩側全葉ニ陰翳アリ、兩側肋膜肥厚ス。(全肺野性)	不 變	C C	+
189	山○宇○ ♂	22 2 3	1 2 +	+	30 22 9	3 0 0	50 51 51	左胸上部濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキク、第3回實驗頃ニ心悸亢進ヲ訴へ、時々血痰或ハ喀血アリ。	左肺尖部ヨリ中野ニ亘リ陰翳ヲ認ム。(片側性)	不 變	D D D	冊
190	矢○武○ ♂	19 " "	++ + +	60 78 73	4 2 8	51 50 50	右胸全體濁音ヲ呈シ、「ラ音ヲキク右下部呼吸音微弱ナリ、無熱ニ經過セルモ第3回實驗コロヨリ輕熱ヲ訴フ。	右肺尖部ヨリ下葉ニ亘リ陰翳アルヲ見、且ツ肋膜肥厚ス。(片側性)	稍ヤ不良	B B C	+	
191	松○哲○ ♂	24 2	1 冊	冊	21 21	0 0	60 61	左胸部ヤ、濁音、「ラ音アリ、時々血痰ヲ訴フ。	左肺尖部ヨリ下葉ニ亘リ陰翳ヲ見ル。(片側性)	不 變	C C	+
192	大○壽○ ♂	23 2 3	1 2 +	++ 冊 +	25 27 30	0 4 0	50 49 50	左胸部濁音ヲ呈シ至ルトコロニ「ラ音ヲキク、第2回實驗頃ヨリ輕熱ヲ訴フ。	左右兩肺全葉ニ陰翳ヲミトメ且ツ左肋膜肥厚ス。(全肺野性)	不 變	C C C	+
193	竹○忍○ ♀	19 " " "	0 冊 冊	冊 冊 冊	125 103 100	2 2 2	42 41 42	左胸部ニ「ラ音稍ヤ多數ヲキク、38°C位ノ發熱持続ス。	兩側肺尖部ヨリ中野ニ亘リ陰翳ヲ見ル。(兩側性)	第3回實驗數日後不變退闊セリ。	C C C	+
194	松○ハ○ ♀	21 2	1 冊	冊	115 75	6 7	45 46	左胸部濁音ヲ呈シ、呼吸音粗ナリ、發熱37°C-38°Cヲ上下ス。	左肺尖部ヨリ下野ニ亘ル陰翳、右肺門部ニ接シヤ、下部ニ浸潤アリ。(兩側性)	不 變	D D	+
195	米○キ○ ♀	26 2 3	1 ++ +	++ 130	77 77 1	6 0 1	44 44 43	左胸部濁音ヲ呈シ、多數ノ「ラ音ヲキ、右胸ニ於テハ又「ラ音ヲキク、微熱状態持続、脈搏90以上。	兩肺全葉陰翳ヲ以テ覆ハル。(全肺野性)	第3回實驗3ヶ月後ニ死亡セリ。	D D D	+
196	平○民○ ♀	23 2 3	1 ++ 土	士 +	75 95 102	3 3 3	50 49 50	右胸下部濁音ヲ呈シ、右胸部ニ「ラ音多數ヲキク。微熱状態持續、脈搏110以上。	右肺、上葉、下葉ニ左肺中野ニ陰翳ヲミトム。(兩側性)	不 變	D D D	+
197	平○愛○ ♀	23 " "	++ 冊 +	冊	75 51 50	8 5 5	42 39 38	兩側胸部ニ「ラ音ヲキク、微熱状態持続ス、一見健康體ニ見ニ。	全葉性ニ陰翳ヲ見ル。(全肺野性)	不 變	C C C	冊
198	南○タ○ ♀	23 2	1 +	++ +	89 91	5 9	43 40	右胸上部下部濁音ヲ呈シ、右胸全體ニ亘リ「ラ音ヲキク、輕熱状態持續。	右肺全葉、右肋膜肥厚、左肺上葉。(兩側性)	第2回實驗3週間後喀血死	C C	冊
199	青○フ○ ♀	24 2	1 土	++ 土	74 88	5 7	48 45	兩胸部濁音ヲ呈シ「ラ音多數、高溫持續、脈搏頗、下痢、第2回實驗頃ヨリ下熱シ食思特ニ不振トナル。	全葉性ニ陰翳アリ。(全肺野性)	增第2回實驗數日後退闊	D D	+

200	大○予△	25 2 3	1 土 +	16 23 25	10 3 3	47 46 45	右胸部濁音，該部ニ「ラ音アリ，輕熱持續，血痰時々アリ。	右肺尖部ヨリ中野ニ亘ル陰翳ヲ見ル。(片側性)	不 變	C C C	+
201	南○雄△	19 △ 8	++ ++ ++	85 74 18	10 8 10	43 44 43	兩胸部ニ「ラ音ヲキク，輕熱狀態持続ス。	兩肺陰翳ヲ以テ覆ハル。(全肺野性)	不 變	D D D	+
202	笛○八○	24 2 9	1 冊 +	75 38	0 0	45 43	左胸部濁音ヲ呈シ呼吸音弱シ，時々輕熱ヲ發ス。	入園時左鎖骨下ニ徑4cm大ノ陰翳アリ増大ノ傾向アリタルガタメ實驗1ヶ月前ヨリ人工氣胸施行中。(限局性)	良 好	B B	+
203	腰○利△	19 △ 2	1 ++	38 37	2 10	50 43	兩側胸部ニ多數ノ水泡音ヲキク，輕熱持續，咳嗽，喀痰多ク，時々血痰。	全葉性ニ見ラル。(全肺野性)	第2回實驗1ヶ月後死亡	D D	+
204	池○良○	20 2 3	1 土 +	40 56 47	3 4 8	50 50 50	兩胸部濁音ヲ呈シ多數ノ「ラ音ヲキク。輕熱狀態持續シ，血痰，喀痰時々アリ。	全葉性ニ見ラル。(全肺野性)	惡 化	D D D	+
205	腰○マ○	27 △ 9	++ ++ ++	30 60 60	7 8 8	39 缺 缺	兩胸部濁音ヲ呈シ「ラ音多數ヲキク。輕熱持續，第1回實驗時ヨリ下痢便ヲ訴フ。	全葉性ニ見ラル。(全肺野性)	第3回實驗1ヶ月後死亡	D D D	+
206	袖○由○	23 △ 9	++ ++ 冊	50 61 77	2 4 7	32 30 29	同 上	全葉性ニ見ラル。(全肺野性)	第3回實驗14日後死亡	D D D	+
207	齋○キ○	29 △ 9	++ ++ 土	110 115 120	8 8 8	43 43 43	全胸部ニ「ラ音ヲキク，輕熱乃至高熱持續，脈搏110以上。	全葉性ニ陰翳ヲ見，且ツ兩側肋膜肥厚ス。(全肺野性)	第3回實驗3ヶ月後死亡	D D D	+
208	和○ト○	17 2	1 ++	95 74	0 0	35 36	左胸部濁音ヲ呈シ笛音多數キク。高熱持續，脈搏110前後，下痢便ヲ訴フ。	左肺尖部ヨリ中野ニ亘リ陰翳ヲ認メ且ツ右肺門腺腫大ス。(片側性)	第2回實驗後間モナク死亡	D D	-
209	山○六○	42 △ 9	++ ++ 土	147 144	9 10	48 47	兩胸部共ニ呼吸音微弱，呼吸困難ヲ訴へ脈搏120前後，發熱38°C前後，初メ食慾可良ナリシモ初回實驗後間モナク不良トナル。	左肺ハ全葉，右肺ハ中野ニ陰翳アリ。(兩側性)	第2回實驗數日後死亡	D D	+
210	二○ナ○	28 2 3	1 ++ +	47 38 43	5 4 5	44 44 44	左胸部呼吸音弱シ，時々輕熱ヲ發ス。	左肺上葉ニ廣マレル陰翳ヲ認ム。(片側性)	不 變	C C C	+
211	紙○愛○	18 2	1 ++	50 68	0 0	43 45	右胸下部稍ヤ濁音ヲ呈シ「ラ音ヲ少許キク，微熱持續。	右肺下葉ニ浸潤ヲ見ル(片側性)	不 變	C C	冊
212	橋○千○	22 △ 9	++ ++	12 20	2 1	44 47	右胸部濁音ヲ呈シ「ラ音アリ。	右肺尖ヨリ第3肋間マデ，左肺門ニ接シ小浸潤。(片側性)	稍ヤ良好	C B	+
213	高○清○	17 2 3	1 ++ +	130 108 112	0 0 0	35 35 35	兩胸部濁音，氣管枝音，笛音ヲキク，輕熱狀態持續，咳嗽，喀痰少々。	兩肺全葉性ニ陰翳ヲ認ム。(全肺野性)	不 變	D D D	+

214	專○菊♀	21 2	1 2	母 ++	76 87	2 6	49 50	左胸濁音ヲ呈シ、「ラ音ハ左胸全體、右胸中野ニキク、輕熱状態持續。」	左肺全葉、右肺中野ニ陰翳アリ。(兩側性)	不 變	C C	++
215	太○文○	17 2 3	1 2 3	++ ++ +	45 64 40	10 10 4	42 44 45	兩胸上部濁音アリ該濁音界ニ於テ多數ノ「ラ音ヲキク、輕熱状態持續。」	兩側肺上野ハ陰翳ニテ覆ハル。(兩側性)	不 變	C C C	+
216	杉○ミ○	19 '' ''	'' '' ++	母 ++ ++	42 54 82	3 3 3	45 45 46	右胸下部濁音ヲ呈シ、該部ハ呼吸音微弱ニシテ、輕熱持続ス。	右側上葉ニ浸潤ヲ見、且ツ右肋膜肥厚ス。(限局性)	不 變	C C C	++

第9表 肋膜炎患者 S.C.C. 成績 (Nr. 217-220)

番號	氏名	年齢	回	S.C.C. 成績	赤沈速度 (mm)	「ガフキ一氏表(號)	體重 (kg)	主タル臨床所見	X線透視像	経過	作業	「マ氏反応
217	鳥○静○	18 2 3	1 2 3	母 ++ ++	45 100 31	0 0 0	54 50 54	右胸下部濁音ヲ呈シ呼吸音微弱ナリ、第2回實驗頃ニ左側滲出性肋膜炎トナル。	右肋膜癒着アリ、第2回實驗時コロ左側ニ中等度肋膜瀦留液アルヲ認ム、約2ヶ月ニシテ吸收サレタリ、腹部膨漫ス、但シ漸次縮少ス。	一時悪化後直チニ良	B C C	++
218	吉○マ○子	13 '' ''	13 '' ''	++ + +	89 137 87	0 0 0	34 38 39	左胸下部濁音ヲ呈シ呼吸音微弱ナリ、腹部ヤ緊張シ疼痛アリ、脈搏110/分上下スレドモ漸次正常ニ復シテ、アリ、體温ハ平熱ヲ持続ス。	左肺廣汎性ノ肋膜肥厚ヲミトメ、肥厚ノ輕快ト共ニ左肺下葉ニ小浸潤アルヲ見ル。	良 好	C C C	++
219	安○武○	19 '' ''	19 '' ''	++ ++ ++	8 38 19	0 0 0	43 44 45	右胸下部濁音ヲ呈シ呼吸音微弱ナリ、發熱ナシ。脈搏ハ實驗第3回コロマテ110前後ナリシモ3回實驗約1ヶ月コロヨリ平常トナル。	右側ニ廣汎性肋膜肥厚ヲ認ム。	良 好	C B B	++
220	淺○次○	21 '' ''	'' '' ''	母 母 母	83 17 29	0 0 0	46 47 50	左側稍ヤ濁音ヲ呈シ呼吸音微弱ナリ、左側滲出液ハ漸次吸收サレソ、アリ、第1回實驗後コロヨリ體温平熱トナル。	左側ニ廣汎性滲出液ヲ認メタルモ段々吸收サレ、第3回實驗頃ニハ肋膜肥厚ヲ形成シ且ツ漸次透明度ヲ増加シテ、アリ。	良 好	C C B	++

第3章 総括並ニ考按

人類一度疾病ニ侵入ル、ヤ、個體ハ極力之ガ病原菌ノ體内増殖ヲ阻碍シ、菌ノ潰滅ヲ期スル目的ヲ以テ諸種抵抗現象ヲ顯ハスニ至ルハ、先人ノ夙ニ教フルトコロナリ、S.C.C.ニ於テ結核菌ガ結核患者血液ニ依リテ増殖阻止セラル、現象亦抵抗現象ノ一ナリト云フヲ得ベシ。

S.C.C.法ハ1923年 A.E. Wright ガ考按セシモノニシテ、翌1924年結核患者血液中ノ白血球

ハ健常人ノ其レニ比シ、結核菌ノ周圍ニ集合スルコト多キヲ認メ、之ノ事實ヲ以テ結核患者血液ノ結核菌増殖阻止作用ヲ説明セルモ、伊藤⁽¹⁾、寶來⁽²⁾氏等ハ白血球ヲ以テ増殖阻止作用物質ト見做スヲ得ズ血漿中ニ増殖阻止物質ノ存スペキコトヲ力説セリ。

然ルニ輓近結核菌増殖阻止作用ヲ「ツベルクリンーアレルギー」ヲ以テ説明ヲ試ミントスル

モノ續出スルニ至レリ。即チ佐藤、伊藤、飯田、野尻⁽⁷⁾、瀧川⁽²³⁾、宮坂⁽¹⁴⁾氏等ハ菌増殖阻止現象ハ「ツベルクリン—アレルギー」ニ逆行スルモノニシテ「ツベルクリン反應陽性轉化ト共ニ、菌増殖阻止作用ハ旺盛トナルト云ヒ、瀧川、緒方兩氏⁽¹⁹⁾ニ從ヘバ「ツベルクリン反應陽性度ノ強弱ト菌増殖ハ逆行スルモノナリト言フ。

「ツベルクリン反應陽性轉化時ノ實驗成績ハ然リトスルモ肺結核患者ニ就キテナサレタル業績ハ甚ダ僅少ナリ。瀧川氏⁽²³⁾、今村、瀧川兩氏⁽⁵⁾、西村氏⁽¹⁷⁾及ビ宮坂氏⁽¹⁴⁾ノ報告アルニスギズ。宮坂氏ハ結核發現時ノ新鮮ナル患者ニ就キテ經過ヲ追フテ菌ノ消長ヲ窺ヒタルモノナレド、前記四氏ノ實驗成績ハ經過ヲ追フテ觀察ナサレタルモノニアラズ。宮坂氏ハ菌増殖阻止作用ト「ツベルクリン—アレルギー及ビ補體結合反應トハ逆行スルコト明瞭トナリタルモ菌増殖狀態ガ病型ト如何ナル關係ニアリヤ又菌増殖ノ消長ガ病型及ビ疾病ノ經過ト如何ナル關係ニアルヤハ尙ホ明カナラズト云ヘリ。

余ハ肺結核患者ニ就キ經過ヲ追フテ菌増殖度ヲ觀察シタル結果ヲ、以下項目ノ觀點ニ立脚シ總括的考按ヲ試ミントス。

先づ健康人及ビ肺結核病型分類別ニ依ル菌ノ増殖度ニ就キ述べ、次ニ赤血球沈降速度、體重、體溫ト菌増殖度トノ關係ヲ組合セ的ニ論ジ、次ニマントウ氏反應ノ強弱ト菌増殖度トノ關係及ビNegative Anergieト菌増殖度トノ關係ヲ検討シ最後ニ病類別及ビ病狀經過（良、不變、增惡）ト菌増殖度ノ移動關係ヲ考究セリ。

第1節 健常人及ビ肺結核類別 結核菌増殖度（第10表參照）

1. 健常人

標本Iニ於テハ44名中31名、標本IIニ於テハ39名中28名、總判定44名中32名ニ於テ卅以上ノ増殖度可良ナルモノヲ認メ、之ノ百分率ハ72.7±6.7ニ相當ス。

2. 容疑性肺結核患者

第I、第II、第III回實驗合算延人員39名中増殖度卅以上ノモノ29名(74.4±6.9)アリ、而シテ

各實驗毎ニ増殖度可良ナルモノニ大差アルヲ認メズ。

3. 肺門腺結核患者

實驗合算延人員25名中増殖度卅以上ノモノ18名(72.0±9.0)アリタリ。

4. 肺尖結核患者

實驗合算延人員30名中増殖度卅以上ノモノ18名(60.0±8.9)アリ、且ツ各實驗毎ニ増殖度可良ナルモノニ大差アルヲ認メズ。

5. 増殖性肺結核患者

有空洞ナルモノニアリテハ實驗延人員38名中増殖度卅以上ノモノ22名(57.9±8.0)、無空洞ニ於テハ同様135名中増殖度卅以上ノモノ86名(63.7±4.1)ニシテ、兩者増殖度可良ナルモノヲ比スルニ大差ナシ、且ツ各實驗毎ニ増殖度可良ナルモノニ大差ナシ。

以上ヲ合算スルニ増殖性肺結核ニ於テハ實驗延人員173名中108名(62.4±3.7)=増殖度卅以上ノモノヲ認メタリ。

6. 滲出性肺結核患者

有空洞ニアリテハ實驗延人員117名中増殖度卅以上ノモノ45名(38.5±4.5)、無空洞ニ於テハ同様192名中増殖度卅以上ノモノ73名(38.0±3.5)ニシテ滲出性肺結核ニアリテハ空洞ノ有無ニ關セズ増殖度甚ダシク劣勢ナリ。

滲出性肺結核ニアリテハ經過ト共ニ菌増殖ノ不良トナルヲ認メタリ。這般ノ事實ハ病勢ノ進行ニ附隨シ菌ノ増殖ハ阻止セラル、コトヲ證スルモノニアラザルカ。

尙ホ滲出性肺結核實驗延人員309名中118名(38.2±2.8)=増殖度卅以上ノモノアルヲ認メタリ。

7. 肋膜炎患者

實驗合算延人員12名中7名(58.3±14.2)ニ以上ノ増殖度ヲ示セリ。

（小括）

以上ヲ要約スルニ健常人ニ於テハ増殖度甚ダ可良ナルヲ認ムルモ尙ホ増殖度不良ナルモノアリテ健常人必ズシモ凡テニ於テ増殖可良ナルヲ示スニアラザルヲ知ル。即チ健常ナルモノニ於

第10表 健常人及び肺結核類別結核菌増殖度一覽

病類別 回	健常人			容疑性肺結核			肺門結核			肺尖結核			增殖性肺結核			滲出性肺結核			助膜炎					
				空洞(+)								空洞(-)			空洞(+)			空洞(-)						
	I	II	判定	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
増殖度	16	18	21	7	5	4	4	3	0	4	2	2	4	5	2	12	20	13	7	9	3	18	18	7
	7	2	4	1	4	2	2	2	2	2	2	2	3	3	4	12	10	7	7	4	1	7	8	3
	8	8	7	3	2	1	2	2	1	1	2	1	0	0	1	7	3	2	6	5	3	4	5	1
	5	3	6	1	2	3	0	0	1	0	1	4	3	2	7	10	12	10	12	11	21	19	7	1
	5	6	5	2	1	1	1	2	3	2	3	2	2	1	2	8	5	3	7	11	6	14	12	11
	3	2	1	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	1	3	1	37	44	44	29	76	76	40
實 數	44	39	44	14	14	11	9	9	7	11	11	8	13	13	12	49	49	37	22(59.5±8.1)	33(67.3±6.7)	31(40.8±5.6)	29(38.2±5.6)	3(75.0±7.4)	
増殖度以上 實數及%	32 (72.7±6.7)			8(88.9±10.4)			7(63.6±14.5)			3(42.9±18.7)			7(54.5±5.0)			5(62.5±17.1)			86			45		
				11(78.6±11.0)			7(77.8±13.8)			11(78.5±11.0)			7(63.5±14.5)			22 (57.9±8.0)			86			45		
(I+II+III) 増殖度以上 實數及%	72.7±6.7 (判定=由ル)			29 (74.4±6.9)			18 (72.0±9.0)			18 (60.0±8.9)			108 (62.4±3.7)			108 (62.4±3.7)			118 (38.2±2.8)			73 (38.0±3.5)		

テ個體的差異ノ存在スル事ハ Meissner, 緒方, 西川, 熊本, 緒方濫川, 佐藤伊藤, 西村ノ諸氏ノ既ニ認メシトコロナリ。

而シテ健常ナル個體ニ於テ菌増殖ニ差異アルヲ甲ハ先天的因子ニ依ルト云ヒ (Meissner, 緒方) 乙ハ後天的ニ獲得シタル免疫ノ多寡ニヨリテ支配セラル、モノナリト云ヘリ (濫川, 緒方)。但シ前者ハ健常海猿ニ就キテノ實驗成績ニシテ後者ハ健常人ニ就キテノ實驗成績ナリ。

肺結核類別ニアリテハ容疑性肺結核 (74.4 ± 6.9), 肺門結核 (72.0 ± 9.0), 無空洞増殖性肺結核 (63.7 ± 4.1), 肺尖結核 (60.0 ± 8.9), 有空洞増殖性肺結核 (57.9 ± 8.0) ノ順ニ増殖度不良トナリタルモ尙ホ増殖度卅以上ノモノ半數ヲ凌駕シオリ, 滲出性肺結核ニ至リテハ増殖度著シク阻止セラレタリ。

以上余ノ成績ヲ西村氏ガ外來患者ニ就キ流动パラフィン」中ニ於テ培養 5 日間ヲ以テナシタル成績(第11表参照)ニ比スルニ(西村氏増殖度ハ+以上ヲ増殖度可良ト見做ス)健常人, 疑似症ニ於テハ余ノ場合ノ率ヨリ優勢ナレド停止性 (58.3 ± 14.2), 進行性 (36.4 ± 8.4) ニシテ余ノ増殖性 (62.4 ± 3.7), 滲出性 (38.2 ± 2.8) =略々一致セリ。

第11表 増殖度總括表

(培養日數 5 日)

西村英男氏論文ヨリ抜萃

肺結核 病 狀	增殖度 (5 日目)						計
	-	±	+	++	+++	卅	
健 常	2	1	4	19	13	4	43
疑似症	2	1	3	6	2		14
停止性	3	2	2	3	2		12
進行性	16	5	6	4	2		33
重 症			2	3	4		9
合計							111名

又柴田氏⁽²²⁾ガ東京市療養所ニ於テ in Vitro (S. C. C. 法ニヨリタルニハアラズ) ニ於テ, 結核患者血漿中ニ菌ヲ培養シ, 菌ノ増殖阻止作用ヲ検シタルモノニ比スルニ(第12表参照)肺結核患者及ビ健康人ノ菌増殖阻止作用大約一致セ

リ。

(但シ廿ハ増殖阻止作用陰性,卅,卅ヲ同弱陽性, ++ヲ同陽性, +, +ヲ同強陽性ト假定ス)。

第12表 健康人及ビ結核患者血漿内 結核菌増殖阻止作用成績

(柴田正名氏論文ヨリ抜萃)

	肺結核患者 (460名)	健 康 者 (140名)
阻止作用陰性(-)	146(31.4%)	75(53.6%)
同 弱 陽 性(+)	84(18.3%)	35(25.0%)
同 陽 性(++)	104(22.6%)	16(11.4%)
同 強 陽 性(++)	126(27.4%)	14(10.0%)

第2節 肺結核患者ニシテ赤血球沈降

速度正常圈内ニアリ, 體重ノ減少

ヲ來サズ平熱状態ニ經過セシモノ

ノ結核菌増殖度(第13表参照)

之ニ屬スルモノハ肺門結核 2 名, 肺尖結核 1 名, 増殖性肺結核 8 名(有空洞無空洞ヲ合算)アリ, 病別合算延人員 29 名中増殖度卅以上ヲ示シタルモノ 22 名 (75.9 ± 8.0) アリタリ。

第3節 肺結核患者ニシテ赤血球沈降

速度異常促進状態ニ經過セルモノ

ノ結核菌増殖度(但シ肋膜炎 4 ヲ

含ム)(第14表参照)

之ニ屬スルモノハ肺門結核 2 名, 肺尖結核 8 名, 増殖性肺結核 53 名, 滲出性肺結核 16 名他ニ肋膜炎 4 名, 計 83 名ニシテ實驗延人員 228 名中増殖度卅以上ノモノ 136 名ナリ (59.6 ± 3.2)。

赤血球沈降速度異常促進状態ニ經過セルノミニシテ他ニ發熱, 體重減少ヲ訴フルニ至ラザルモノニアリテハ, 60% 内外ニ於テ増殖度可良ナルヲ認ムルモ第 2, 第 3 回ト時日ノ経過ニ伴ヒ卅以上ノ増殖度率ハ漸次減少シタルヲ見ル。

又各病別ニ増殖度ヲ觀察スルニ, 有空洞滲出性肺結核ニ於テハ他ノ病別ニ比シ, 不良ナリ。即チ肺尖結核, 増殖性肺結核, 無空洞滲出性肺結核, 肋膜炎ニアリテハ卅以上ノ菌増殖度ヲ示セシモノ 60% 内外ニ認メシモ有空洞滲出性肺結核ニ於テハ 47.0 ± 9.1 ナリ, 且ツ實驗回數ヲ重

第13表 肺結核患者ニシテ赤血球沈降速度正常圈内ニアリ、體重ノ減少
ヲ來サザル且ツ平熱狀態ニ經過セルモノノ結核菌増殖度

病類別 回 増殖度	肺門結核			肺尖結核			增殖性肺結核					
							空洞有ス			空洞ナシ		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
+	1	1						2		2	3	2
冊	1			1	1	1			1	2	1	
卅							2		1	1	1	1
廿									1	1	1	
+		1	1									
士												
實數	2	2	1	1	1	1	2	2	2	6	6	3

病類別合算第1回實驗増殖度卅以上百分率
 " II " 81.8±11.6
 " III " 71.4±17.1
 " I + II + III " 75.9±8.0

第14表 肺結核患者ニシテ赤血球沈降速度異常促進狀態ニ經過セルモノノ結核菌増殖度（但シ肋膜炎4ヲ含ム）

病類別 回 増殖度	肺門 結核			肺尖 結核			增殖性肺結核			滲出性肺結核			肋膜 炎		
							空洞 (+)			空洞 (-)					
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
+	1	1		3	1	1	4	3	2	10	17	11	1	2	
冊				1	1	1	3	3	3	10	8	7	2	1	1
卅	1	1	1	1	2	1		1	6	2	1	4	2	1	
廿					1		2	3	1	6	9	11	2	4	4
+				1	3	1	2	1	2	7	5	3	1	2	1
士				2	1		1	1	3	1	1	1	1	1	1
實數	2	2	1	8	8	5	11	11	10	42	42	33	11	11	8
I + II + III 合計 増殖度卅以上 百分率	5	12		19	72		14			7			7		
	57.1 ±10.8	61.3 ±8.6		61.5 ±4.5	47.0 ±9.1		63.6 ±6.0			58.3 ±14.2					

病類別合算第1回實驗増殖度卅以上百分率
 " II " 61.4±5.3
 " III " 53.2±6.3
 " I + II + III " 59.6±3.2

ヌルニ從ヒ、菌増殖度ノ阻止セラル、特ニ顯著ナリ。

次ニ異常促進分類別ニ依ル菌増殖度ハ第15表

ニ見ルガ如シ。即チ輕度、中等度促進ノミニテハ70%内外ニ於テ菌増殖度可良ナルヲ認メタレ

ドモ強度促進ニ於テハ40%内外ナリ。

第15表 赤血球沈降速度異常促進分類別＝依ル菌増殖度

回 増殖度	赤沈速度			輕度促進 (9→23mm)			中等度促進 (24→55mm)			強度促進 (56mm以上)		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
+	9	12	6	8	10	7	5	5	2			
+	6	5	3	8	7	8	3	3	2			
++	1	2	2	5	5	2	7	2	1			
++	3	3	4	5	6	6	5	9	8			
+	3	3	1	4	2	3	5	6	5			
-	3			1	1		2	2	2			
計	66			88			74					
I + II + III合計 増殖度++以上 百分率	46 69.7±5.7			60 68.2±5.0			30 40.5±5.7					

(小括)

要之＝赤血球沈降速度ノ異常促進セル結核患者ノ全血液内結核菌増殖度ハ有空洞滲出性肺結核ニ於テノミ甚ダシク不良ナリ。又輕度、中等度促進ハ左程菌増殖ニ阻止的影響ヲ與フルモノニアラズシテ、強度促進セラレハニ及ビ、初メ

テ菌増殖度、著明ニ阻止セラレタルヲ認ム。

第4節 肺結核患者＝シテ赤血球沈降

速度異常促進シ、且ツ有熱状態

ニ經過セシモノノ結核菌増殖度

(第16表参照)

之ニ屬セシモノハ肺門結核5名、肺尖結核2

第16表 肺結核患者＝シテ赤血球沈降速度異常促進シ且ツ有熱状態
ニ經過セルモノノ結核菌増殖度

病類別 回 増殖度	肺門結核			肺尖結核			滲出性肺結核					
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
+	2	1		1	1	1	5	6	2	15	11	6
+	1	2	2				3	2			4	1
++	1	1					1	2	1	3	2	3
++			1				4	5	7	12	13	6
+	1	1	2	1		1	4	6	2	8	7	5
-					1		5	1	3	8	9	5
實 數	5	5	5	2	2	2	22	22	15	46	46	26
I + II + III合計 増殖度++以上 ノ百分率	10 66.7±14.9			3 50.0±20.4			22 37.3±6.3			45 38.1±4.5		

病類別合算第1回實驗増殖度++以上百分率 42.7±5.7

" II " " 42.7±5.7

" III " " 33.3±6.8

" I + II + III " " 40.4±3.5

名、有空洞滲出性肺結核22名、無空洞滲出性肺結核46名アリタリ。肺門結核ニ於テハ 66.7 ± 14.9 、肺尖結核ニ於テハ 50.0 ± 20.4 = 級増殖度卅以上ノモノヲ認メタレドモ赤血球沈降速度ノミ異常促進セシモノニ比シ其ノ率ニ於テ劣勢ナリ。

滲出性肺結核ニアリテハ有熱ナル因子ヲ加フルコトニヨリ菌ノ増殖度ハ空洞ノ有無ニ關セズ甚ダシク不良(37.3 ± 6.3 , 38.1 ± 4.5)ニシテ赤血球沈降速度ノミ異常促進セシモノニ比シ増殖率劣レリ。

但シ滲出性肺結核ニアリテハ空洞ノ有無ニ關セズ菌増殖度不良ナリト云フハ第1, 第2, 第3回實驗合算シタルモノニ就キテノ成績ナリ。今之ヲ實驗毎ニ増殖度卅以上ノ百分率ヲ檢スルニ無空洞ノモノニアリテハ實驗毎ニ變動アルヲ認メ得ザルモ有空洞ニ於テハ第3回實驗ニ於テ顯著ニ減少セリ(20.0%)。

本節ノ標題ニ屬シタル病別合算實驗延人員198名中増殖度卅以上ノモノ80名アリタリ(40.4 ± 3.5)。

次ニ肺結核患者ニシテ赤血球沈降速度異常促進シ且ツ體重減少状態ニ經過セシモノハ第17表ニ見ル如ク僅カニ3名ナリキ。之ヲ以テ菌ノ増殖度ヲ辯ズルコト能ハズ。

第17表 肺結核患者ニシテ赤血球沈降速度異常促進シ且ツ體重減少(1ヶ月約2kg以上)状態ニ經過セシモノノ結核菌増殖度

病類別 回 増殖度	増殖性肺結核 空洞(-)			滲出性肺結核 空洞(+)		
	I	II	III	I	II	III
+						1
卅		1				
卅				1	1	
廿			1	1	1	
十	1					
士						1
實數	1	1	1	2	2	2

第5節 肺結核患者ニシテ赤血球沈降

速度異常促進シ、有熱状態ニシテ且ツ體重減少(1ヶ月2kg以上)状態ニ經過セシモノノ結核菌増殖度

(第18表参照)

第18表 肺結核患者ニシテ赤血球沈降

速度異常促進シ有熱状態ニシテ、且ツ體重減少(1ヶ月約2kg以上)状態ニ經過セルモノノ結核菌増殖度

病類別 回 増殖度	滲出性肺結核 (有空洞)			滲出性肺結核 (無空洞)		
	I	II	III	I	II	III
+	1	1		2	5	1
卅	2	1		5	3	2
卅			1	1	2	
廿	3	2		8	5	1
十	2	3	3	5	5	5
士	1	2		4	5	4
實數	9	9	4	25	25	13
I + II + III 増殖度卅以上 百分率		6		21		33.3 ± 5.9
		27.3 ± 9.5				

病類別合算第1回實驗増殖度卅以上百分率
 32.4 ± 8.0
" II " 35.3 ± 8.2
" III " 23.5 ± 10.3
" I + II + III " 31.8 ± 5.1

之ニ屬スルモノハ凡テ滲出性肺結核ニシテ有空洞9名、無空洞25名ヲ算ス。有空洞ト無空洞ノ増殖度卅以上ノ率ヲ比較スルニ無空洞ニ於テ稍ヤ優勢ナリト雖モ尙ホ菌増殖度ハ不良ニシテ30%内外ノ域ヲ脱セズ。

有空洞ニ於テハ實驗延人員22名中増殖度可良ナルモノ6名(27.3 ± 9.5)ニシテ無空洞ニ於テ63名中同ジク21名(33.3 ± 5.9)ヲ認メタリ。

第6節 「マントウ氏反応ノ強弱ト結核菌増殖度トノ關係(第19表参照)

佐藤氏ハ結核菌増殖度止作用ハ結核罹患ト特異的關係ヲ有シ、他ノ病原體ヲ以テ免疫處置ヲ施シタルモノニアリテハ、之ノ作用ハ起ラズト

第19表 「マ氏反応ノ強弱ト菌増殖度トノ関係

「マ氏反應 回 増殖度	(-) (発赤直徑4mm以下)			(+) (5-10mm)			(++) (11-20mm)			(+++) (21-30mm)			(++) (31mm以上)		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
-	9	7	4	16	19	6	28	27	16	3	7	2	2	3	3
+		2	1	10	6	8	19	21	12	5	4	2		1	
++		1	5	5	6	5	9	10	5	6	2		3	2	1
+++	1	1	1	9	17	10	26	21	15	7	6	12	2	3	2
++	4	4	3	12	6	2	13	16	16	5	8	4	2	1	1
±	4	4		7	5	7	7	7	7	4	3	2	2	1	
(I+II+III)合計 増殖度卅以上ノ總 數及ビ百分率	24 52.2±7.4			81 52.0±4.0			147 53.5±3.0			31 37.8±5.3			15 51.7±9.3		

言フ。既ニ述べタル如ク先輩諸賢ハ動物ノ實驗的結核感染ニ於テハ菌増殖阻止作用ト「ツベルクリン、アレルギー」ノ發現トハ並行スルモノナリト言ヒ、今村、瀧川兩氏⁽⁵⁾ハ健康人並ニ肺結核患者ノ症狀程度ニ沿ヒテ結核菌ノ増殖阻止作用ヲ觀察シタルニ「ツベルクリン、アレルギー」ト全血液内結核菌増殖トハ逆行セリト、又伊藤氏⁽⁶⁾ハ死菌免疫ニ依リテハ菌増殖ノ阻止作用ハ發現セズト云フ。

以上ヲ綜合スルニ菌増殖阻止作用ヲ以テ種々免疫現象中ノ一方面ナリト考フル事ニ對シ、其ノ妥當性ヲ有スルモノトシテ認メザルベカラズ。

次ニ興味アル實驗報告トシテ緒方、瀧川兩氏⁽¹⁰⁾ハ健康成人血液ノ人型結核菌増殖阻止作用ニ就キテ研究シ、「ツ反應陽性度ノ強キモノノ血液ニヨリテハ菌増殖ノ阻止セラル、傾向多キモ健常人ニアリテハ「ツ反應陽性ナルニモカ、ワラズ菌増殖度旺盛ナリシモノ多數アリシコトヨリ健康人ニ於テハ「ツ反應ノ陰性ト菌増殖度トノ間ニハ何等特別ノ關係存在セザルコトヲ述べ、工藤氏ハ人型F株加熱乾燥死菌免疫ニ依リテモ菌増殖阻止作用ノ發現セシコトヲ述べ、且ツ該菌ヲ海猿皮下竝ニ腹腔内注射ノ場合ハ、「ツ皮内反應陽性ニ轉化セルモ、筋肉及ビ靜脈内接種ノ場合ハ陰性ニシテ、S.C.C.法ニ依ル全血液ノ結核菌發育阻止作用ハ筋肉内接種最モ

強ク、靜脈内、皮下ノ順ニシテ、腹腔内注射ノ場合ハ「ツ皮内反應陽性ナルニモカ、ワラズ結核菌増殖阻止作用最惡ナリト云ヒ、今村、瀧川兩氏⁽⁵⁾ノ「アレルギー陰性即チ菌増殖陽性、「アレルギー陽性即チ菌増殖陰性ナル說ハ成立セザリシコトヲ主張シタルモ、之ノ事實ハ貴島、瀧川⁽³⁾兩氏ガ陽性ツベルクリン無反應ニ於テハ菌増殖阻止現象ヲ發現スト云ヒタルニ、一致シタル事象ト云フ可キ乎。

余ハ「マントウ氏反應ヲ同一患者ニ就キ屢々施行シタルニアラズ、入園時ノ「マントウ氏反應結果ヲ當該セシムルガ故ニ「マントウ氏反應ノ強弱ト菌増殖度トノ關係ヲ論ズルノ或ハ當ヲ得ズト云ハンモ、只緒方、瀧川兩氏（健康人ニ就テ）ノ云フガ如ク、「ツベルクリン反應ノ強弱ト菌増殖阻止作用トハ並行スルヤ否ヤニ興味ヲ感ジ、検索シタルニ第19表ニ見ル如ク、「マントウ氏反應陰性、弱陽性、陽性、中等度陽性、強陽性間ニ於テ卅以上ノ菌増殖度ヲ示セシ率ニ特別ナル關係ノ存在セザルコトヲ知レリ（52.2±7.4, 52.0±4.0, 53.5±3.0, 37.8±5.3, 51.7±9.3）。

次ニNegative Anergieト菌増殖狀態ヲ觀察スルニ、瀧川氏ノ實驗報告ニ依レバ、Negative Anergieノ狀態ニ在ル末期ノ結核患者ニ於テハ菌増殖反ツテ良好ナリシト云フモ、余ノ症例中「マントウ氏反應陰性者18例中陰性Anergieト

第20表 negative Anergie ノ状態ニアルモノノ結核菌増殖度

菌増殖旺盛 状態持続	旺盛トナリ タルモノ	稍ヤ可良トナ リタルモノ	不良トナリ タルモノ	不變ノモノ
Nr. 105 ⊖ ⊖	Nr. 106 ++ + ++	Nr. 115 ± ± ++	Nr. 100 + ±	Nr. 97 ++
Nr. 108 ⊖ ⊖	Nr. 180 ± ± ±	Nr. 175 ± ± +	Nr. 159 ⊖ ±	Nr. 138 ++ +
Nr. 110 ⊖ ⊖		Nr. 187 ± ± +		
Nr. 178 ⊖ ++ ++		Nr. 208 + ++		
Nr. 179 ⊖ ++ ⊖				

思ハレシモノ15例アリタリ(Nr. 97, 100, 105, 106, 108, 110, 115, 138, 159, 175, 178, 179, 180, 187, 208).

其ノ内菌増殖度旺盛状態持続ノモノ5例(Nr. 105, 108, 110, 178, 179), 旺盛トナリタルモノ2例(Nr. 106, 180), 稍ヤ可良トナリタルモノ4例(Nr. 115, 175, 187, 208), 菌増殖不良トナリタルモノ2例(Nr. 100, 159), 不變ノモノ2例(Nr. 97, 138)アリタリ. 第20表ニ見ルガ如シ.

(小括)

即チ以上ヲ要約スルニ, 結核感染發病後相當ノ時日ヲ經過セルモノニ於テハ「マ氏反応ノ強

弱ト菌増殖阻止作用トハ竝行セザルモ Negative Anergie ノ状態ニ於テ菌増殖度旺盛, 或ハ旺盛トナリタルモノ又ハ稍ヤ可良トナリタルモノハ計11例アリ, 即チ Negative Anergie ノ状態ニアリト思ハル、モノニ於テハ菌増殖可良トナリ得ルコトハ首肯シ得ラルトコロナル可シ.

第7節 病類別竝ニ病状経過別ニ依ル菌増殖度ノ移動性ニ就キテ
(第21, 22表参照)

結核患者ノ病別竝ニ病状経過ニ伴ヒ結核菌ノ増殖度ガ如何ニ變遷スルカハ興味アル事ト云ハザルベカラズ.

マツ病別ニ依ル菌増殖ノ移動ヲ觀ズルニ第21

第21表 病類別ニ依ル菌増殖ノ移動性ニ就テ

病類別 菌増殖	容疑性 肺結核	肺門結核	肺尖結核	増殖性肺結核		滲出性肺結核		肋膜炎
				空洞(+)	空洞(-)	空洞(+)	空洞(-)	
不變	11	5	8	7	36	26	52	4
增加			1	1	7	5	8	
増加→減少	1	1		2	3	5	7	
減少	1	3	1	2	2	8	9	
減少→増加	1		1	1	1			
計	14	9	11	13	49	44	76	4
菌増殖ノ 移動率	移動セル モノ3人 21.4±11.0	〃4人 44.4±16.6	〃3人 27.3±13.4	〃6人 46.2±13.8	〃13人 25.5±6.3	〃18人 40.9±7.4	〃24人 31.6±5.3	〃0人 0

菌増殖移動ハ移動性ヲ顯著ナラシムルタメ隔段的變動ヲナシタル場合ト假定セリ.

例ヘバ増殖度(+或ハ其レ以下)↔(++或ハ其レ以上)

第22表 病状経過別ニ依ル菌増殖ノ移動性ニ就テ

病状経過 菌増殖	良 好					不 變					増 悪						
	病類別		肺門 結核	肺尖 結核	増殖性 肺結核	滲出性 肺結核	助 膜炎	容疑性 肺 結核	肺尖 結核	増殖性 肺結核	滲出性 肺結核	助 膜炎	肺門 結核	肺尖 結核	滲出性 肺結核		
			空洞 (+)	空洞 (-)	空洞 (+)	空洞 (-)		空洞 (+)	空洞 (-)	空洞 (+)	空洞 (-)		空洞 (+)	空洞 (-)			
不 變	5	3	5	33	5	6	3	11	5	2	3	8	21	1			
増 加			1	5	1					2	1	2		1	3		
増加→減少			2	2	3			1		1	2	3			4		
減 少	1	1	1	2	1			1		2	5		2		5		
減少→増加			1	1				1					1		4		
小 計	6	4	10	43	10	6	3	14	5	3	6	13	31	1	3	21	39
總 計				82						73					65		
菌増殖ノ移動率	移動セルモノ21人 (25.6±4.8)					移動セルモノ22人 (30.1±5.4)					移動セルモノ (41.5±6.1)						

表ニ見ラル、如ク、有空洞増殖性肺結核 (46.2 ± 13.8)、肺門結核 (44.4 ± 16.6)、有空洞滲出性肺結核 (40.9 ± 7.4)、無空洞滲出性肺結核 (31.6 ± 5.3)、肺尖結核 (27.3 ± 13.4)、無空洞增殖性肺結核 (26.5 ± 6.3)、容疑性肺結核 (21.4 ± 11.0) ノ順ニ移動性ヲ減ジ助膜炎ニテハ菌増殖ニ増減ヲ見ザリキ。

即チ陳舊性助膜炎、容疑性肺結核、肺尖結核、無空洞增殖性肺結核ノ如キ病状ノ比較的安定セルモノニ於テハ、菌増殖ノ變動ヲ見ルコト比較的僅少ニシテ、肺門結核、有空洞增殖性肺結核、滲出性肺結核ノ如キ病状不安定ナリト思ハルモノニアリテハ菌増殖ニ移動ヲ來シ易ク、且ツ後者ノ場合ニ於ケル増殖移動狀態(増加→減少)+(減少)、(減少→増加)+(増加)ノ比ハ 37:15ニシテ終局ハ菌増殖減少即チ阻止的ニ移動シタルモノ、其ノ反對ナリシ場合ノ2.5倍ニ當レリ。

次ニ病状経過ト菌増殖ノ移動性ニ就キ觀察スルニ、第22表ノ如シ。即チ病別總括病状経過ヲ良好、不變、増悪ト大別スルニ良好ナルモノハ 25.6 ± 4.8、不變ナルモノハ 30.1 ± 5.4、増悪セシモノハ 41.5 ± 6.1 = 於テ菌増殖ノ移動率ヲ認メタリ。

更ニ病別病状経過ト菌増殖關係ヲ見ルニ容疑性肺結核ニ於テハ凡テ病状経過不變ニシテ且ツ菌増殖不變ナリ。

肺門結核ニ於テ経過良好ナルモノ6例アリ、内5例ハ菌増殖不變ナリ。経過増悪ナルモノ3例アリ孰レモ菌増殖ハ減少セリ。

肺尖結核ニ於テハ経過良好、不變ヲ合併シ9例アリ、内8例ハ菌増殖不變ナリ。経過増悪セルモノ2例ハ孰レモ菌増殖ノ増加ヲ來セリ。

増殖性肺結核ニ於テハ病状経過良好ナリシモノ53例中菌増殖不變ナルモノ38例アリ、移動セシモノ15例ハ菌増殖ノ増加セルモノ(8例)ト減少セシモノ(7例)ハ相半ス。経過不變ナリシモノ9例中、菌増殖不變ナルモノ5例、移動セシモノ4例ハ増殖度ノ増減相半ス。

滲出性肺結核ニ於テハ経過良好ナルモノ16例アリ、内菌増殖不變ナルモノ11例、増加セシモノ1例、減少セシモノ4例ナリ。

経過不變ナルモノ44例アリ、内菌増殖不變ナルモノ29例、増加セシモノ3例、減少セシモノ12例ナリ。

経過増悪セシモノ60例アリ、内菌増殖不變ナルモノ38例、増加セシモノ9例、減少セシモノ13例アリタリ。

助膜炎ニ於テハ経過ノ良、不變ニ關セズ菌増殖ニ増減ナカリキ。

(小括)

以上ヲ要約スルニ容疑性肺結核ニ於テハ病状経過及ビ菌増殖共ニ不變ヲ示スモノ多ク、肺尖

結核ニ於テハ病狀經過ノ良，不變ニ關セズ菌増殖不變ナルモノ大半ヲ占メ，病狀增悪スルニ至レバ菌増殖增加ノ傾向アリ。

増殖性肺結核ニ於テハ經過良好ニシテ，菌増殖不變ナルモノ大部分ヲ占メ，菌増殖度ノ移動セルモノハ經過良好，不變ヲ通ジ，兩者同率ニ，増減相半ス。

肺門結核ニ於テハ經過良好ナル時ハ菌増殖不變ニシテ，増悪セシ場合ハ減少ノ傾向アリ。

滲出性肺結核ニ於テハ經過良好，不變，增悪ヲ合算シ，120例中菌増殖不變ノモノハ三者略ボ同率ニ半數以上ニ於テ之ヲ認メ，菌増殖ノ移動セルモノハ，經過良好，不變ニ於テハ減少ヲ來シ，増悪ニ於テハ増減9:13ニ認メタリ。

第4章 結論

1. 本論文ハ石川縣立醫王園ニ入園加療中ノ結核患者220名ノ血液ニ就キ，各月1回3ヶ月ニ亘リ，人型結核菌(F株)ノSlide cell cultureヲ行ヒ，結核病型，赤血球沈降速度，體溫，體重，「マントウ氏反應トノ關係，病類別並ニ病狀經過別ニ伴フ，結核菌増殖度ノ移動性ヲ觀察シ，併セテ健康成人44名ノ菌増殖度ヲ検索セルモノナリ。

2. 余ノ培養法ニ依ル時ハ從來ノ方法ニ依レルヨリ増殖度可良ナリ。

3. 健常人ニ於テハ從來報告セラレタル如ク，菌増殖ニ個性的差異アルヲ認メタリ。

4. 健常人及ビ肺結核病型別菌増殖度卅以上ノモノ下記ノ如シ。

健常人(72.7±6.7)%，容疑性肺結核(74.4±6.9)%，肺門結核(72.0±9.0)%，肺尖結核(60.0±8.9)%，有空洞增殖性肺結核(57.9±8.0)%，無空洞增殖性肺結核(63.7±4.1)%，有空洞滲出性肺結核(38.5±4.5)%，無空洞滲出性肺結核(38.0±3.5)%，他=肋膜炎(58.3±14.2)%ニシテ，進行性病型ト思惟セラル、滲出性肺結核ニ於テハ空洞ノ有無ニ關セズ増殖度顯著ニ阻止セラル、ヲ觀タリ。

5. 肺結核患者(容疑性ヲ除ク)ノ菌増殖度ト赤血球沈降速度，體溫，體重トノ關係ハ下記ノ如シ。

赤血球沈降速度正常圈内ニアリ，體重ノ減少ヲ來サズ且ツ平熱狀態ニ經過セルモノニ於テハ，菌増殖度頗ル可良ニシテ増殖度卅以上ノモノ(75.9±8.0)%ナリ。

赤血球沈降速度ノ異常促進セシモノニ於テハ同ジク(59.6±3.2)%，ナリ。而シテ赤血球沈降速度ハ輕度，中等度促進ニ於テハ左程意義ヲ有セズ略ボ70%内外ニ於テ菌増殖度卅以上ノモノアルヲ認メ，強度促進セラル、ニ至リ，菌増殖著シク阻止セラレタリ(40.5±5.7)%。

赤血球沈降速度異常促進シ，有熱狀態ニ經過セシモノニアリテハ卅以上ノ菌増殖度ヲ示シタルモノ(40.4±3.5)%ナリ。

赤血球沈降速度異狀促進シ，有熱且ツ體重減少狀態ニ經過セシモノハ凡テ滲出性肺結核患者ニシテ，卅以上ノ菌増殖度ヲ示シタルモノ(31.8±5.1)%アリ，且ツ有空洞ニ於テ増殖阻止度優勢ナリ。

6. 結核感染發病後相當ノ時日ヲ經過シタルモノニアリテハ，「マントウ氏反應ノ強弱ト菌増殖トノ間ニハ一定ノ關聯性ナシ。但シ Negative Anergie ノ狀態ト恩ハルモノニ於テハ菌増殖稍ヤ可良トナル傾向ヲ認ム。

7. 病型別ニ依ル菌増殖度ノ移動率ハ容疑性肺結核，肺尖結核，無空洞增殖性肺結核其ノ他陳舊性肋膜炎ノ如キ比較的病狀ノ安定セルモノニアリテハ肺門結核，有空洞增殖性肺結核，滲出性肺結核ノ如キ病狀比較的不安定ノモノニ比スルニ小ナルヲ認ム。

8. 各病型ヲ一括シ，病狀經過ト菌増殖度ノ移動ヲ觀察スルニ良好(25.6±4.8)%，不變(30.1±5.4)%，增悪(41.5±6.1)%ノ順ニ菌増殖度ノ動搖性大ナルヲ認メ，菌増殖度ノ動搖シタル肺門結核ニ於テハ増悪スルニ至リ，增殖阻止的

ニ、同ジク肺尖結核ニ於テハ増悪スルニ從ヒ増殖度可良、同ジク増殖性肺結核ニ於テハ經過良好、不變共ニ増殖度ノ増減相半バシ、同ジク滲出性肺結核ニ於テハ經過良好、不變ナル場合ハ阻止的ニ作用シ、増悪スルニ至レバ菌増殖度ノ可良トナリタルモノ 總數60名ノ内 9名 (15.0±4.6)%アリタリ。

但シ各病型別ニ菌増殖度ヲ觀察スルニ病狀經過ト共ニ不變ナリシモノ半數以上アルヲ認メタルナリ。

稿ヲ終ルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導並ニ御校閲ヲ賜リタル恩師大里教授及ビ研究上種々ナル御助言ヲ借シマザリシ醫王園長大澤天臣博士ニ謹ミテ謝意ヲ表ス。

文獻ハ第5報ニ一括スベシ。